



取扱説明書

VHF/UHF無線電話装置 IC-DV60Sシリーズ IC-DU60Sシリーズ

アナログ個別呼び出し対応版

この無線機をご使用の際には、総務省の無線局の免許が必要です。
免許を受けずに使用すると、電波法第110条の規定により処罰されます。

Icom Inc.



はじめに

このたびは、本製品をお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。

本製品は電波法に基づいて、技術基準適合証明(工事設計認証)を受けた国内業務用無線電話装置です。

ご使用の前に、この取扱説明書をよくお読みいただき、大切に保管してください。

本製品の概要

- ◎本製品は、携帯用として設計された、複数波の業務用無線電話装置です。
- ◎デジタルとアナログの両通信方式に対応しています。デジタル通信用の選択呼び出し機能に加え、アナログ通信用の個別呼び出し(3桁仕様)に対応しています。
- ◎デジタル通信により、クリアな音質で通話できます。
- ◎IP67/IP65/IP55/IP54*の性能に対応できるように設計されています。(バッテリーパック、アンテナ装着時に限る)
- ◎通話チャンネル番号や個別番号などの代わりに、漢字、英数字、記号を使用した名称で表示できます。
- ◎デジタル通信用の通話チャンネルでは、秘話機能を設定することで、他局に通話内容を傍受されるのを防止できます。

★「IP表記について」(P.iii)をご覧ください。

通信方式について

本製品は、デジタル通信(ARIB STD-B54方式、ARIB STD-T102方式)とアナログ通信に対応しています。使用できる通信方式は、あらかじめ決められています。通信方式によって使用できる機能が異なります。詳しくは、お買い上げの販売店にお問い合わせください。

電波法上のご注意

- ◎本製品は電波法に基づいて、技術基準適合証明(工事設計認証)を受けた製品です。
分解や改造をしないでください。
- ◎免許状に記載されている範囲内で通信してください。
- ◎他局の通信の妨害、および通話の内容をほかにもらし、これを窃用することは、かたく禁じられています。
- ◎免許の有効期間は、免許取得日から数えて5年間です。
再免許の申請は、有効期限満了の6ヵ月前から3ヵ月前のあいだに手続きをしてください。
- ◎使用できるのは、日本国内に限られています。

付属品

- ◎アンテナ 1
- ◎ハンドストラップ 1
- ◎簡易取扱説明書
- ◎ご注意と保守について
- ◎保証書

取扱説明書の内容について

本書に記載の操作や機能は、お買い上げの販売店であらかじめ設定をご依頼いただくことにより使用できる機能も含まれています。

一般的なご使用を想定した内容にしていますので、ご使用になる機能や操作について詳しくは、お買い上げの販売店にお問い合わせください。

使用後はリサイクルへ



この製品は、充電式電池使用機器です。希少な金属を再利用し、地球環境を維持するために、不要になった電池は廃棄せず、端子部分をテープで絶縁し、充電式電池リサイクル協力店へご持参ください。
充電式電池リサイクル協力店については、一般社団法人JBRCのホームページでご確認ください。
JBRCホームページ <https://www.jbrc.com/>

登録商標/著作権

アイコム株式会社、アイコム、Icom Inc.、アイコムロゴは、アイコム株式会社の登録商標です。
その他、本書に記載されている会社名、製品名は、各社の商標または登録商標です。
本書の内容の一部、または全部を無断で複写/転用することは、禁止されています。
本製品のフォントは、モリサワとイワタのフォントを採用しております。

はじめに

取り扱い上のご注意

- ◎アンテナを持って本製品を持ち運んだり、振り回したりしないでください。
- ◎本製品を極端に寒い場所から持ち運んだ場合は、結露する可能性があります。
結露した場合は、自然乾燥させるか、長いあいだ同じ環境に置くなどして、結露がなくなってからご使用ください。
- ◎雨の中や、水滴が付着、またはぬれた手のままでバッテリーパックや防水形スピーカーマイクロホン、アンテナを付けたり、はずしたりしないでください。
- ◎蛇口からの水や湯を直接当てないでください。
- ◎無線機本体やバッテリーパックと充電器の各端子(充電端子、および電源ジャック)、アルカリ電池ケースの電池端子にゴミやホコリが付着すると、正常に動作しないことがあります。
乾いた布などで、各端子を定期的にふいてください。
- ◎磁気カードを無線機に近づけないでください。
磁気カードの内容が消去されることがあります。
- ◎バッテリーパックをお買い上げいただいたときや、2ヵ月以上使用しなかったときは、必ず充電してください。
- ◎本製品の故障、誤動作、不具合などの外部要因により通信、通話などの機会を失ったために生じる損害や逸失利益、または第三者からのいかなる請求についても当社は一切その責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。

海水が付着したときは？

海水が無線機に付着したときは、すぐに洗い流し、水分をふき取って十分に乾燥させてからご使用ください。
海水が付着したまま放置したり、使用したりすると、故障の原因になります。

- ※バッテリーパック、アンテナ、保護カバーを無線機に正しく取り付けた状態で洗浄してください。
- ※常温の真水でやさしく洗い流してください。
- ※ブラシなどを使用せず、手で洗い流してください。

ご注意

次の場合は防水性能を維持できませんので、弊社サポートセンターにご相談ください。

- ・無線機本体、コネクタの保護カバーが破損している場合
- ・落下などの強い衝撃を無線機に与えた場合

防塵/防水性能について

アンテナとバッテリーパックを無線機本体に装着することで、IP67/IP65/IP55/IP54の防塵/防水性能になります。

次のような使いかたをすると、防塵/防水性能を保証できませんので、ご注意ください。

- ◎水深1m以上、または30分以上水中に放置したとき
- ◎雨の中や、水滴が付着、またはぬれた手でバッテリーパックやアンテナ、防水形スピーカーマイクロホンを付けたり、はずしたりしたとき
- ◎海水や砂、泥、洗浄液(洗剤)等が無線機に付着したまま放置したとき
- ◎落下等外的衝撃により、樹脂変形、ひずみ、ひび割れ等が発生した場合や薬品の付着により筐体、ゴムパッキンに劣化が生じたとき
- ◎長時間、高い水圧をかけたとき
- ◎「別売品の使用による防塵/防水性能について」に記載する別売品以外を使用したとき
- ◎無線機本体とバッテリーパック端子間の腐食による故障、または損傷があるとき
- ◎ -20°C ～ $+60^{\circ}\text{C}$ 以外の環境で使用了とき
- ◎薬品等の蒸気が発散しているところや薬品に触れるところに放置したとき
- ◎本製品を分解または改造したとき
- ◎無線機本体とバッテリーパック、アンテナ、別売品を接続するコネクタ間に微細なゴミ(糸くず、毛髪、砂など)が挟まっているとき

別売品の使用による防塵/防水性能について

バッテリーパック(BP-220N1/BP-274N/BP-274)、防水形スピーカーマイクロホン(HM-172)、IC-DU60S3用短縮型アンテナ(FA-S73U)を無線機本体に装着することで、IP67の防塵/防水性能があります。

- ※上記以外の別売品を使用したときは、別売品を含めた防塵/防水性能の低いものに制限されます。
- ※別売品(P.9-1)は、防塵/防水性能をご確認の上、ご使用ください。

はじめに

IP表記について

機器内への異物の侵入に対する保護性能を表すための表記です。

IPにつづけて保護等級を示す数字で記載され、1つ目の数字が防塵等級、2つ目が防水等級を意味します。

また、保護等級を定めない場合は、その等級の表記に該当する数字部分を「X」で表記します。

【本書で記載する保護の程度について】

IP5X(防塵形) : 試験用粉塵を1m³あたり2kgの割合で浮遊させた中に8時間放置したのちに取り出して、無線機として動作すること

IP6X(耐塵形) : 試験用粉塵を1m³あたり2kgの割合で浮遊させた中に8時間放置したのちに取り出して、無線機の内部に粉塵の浸入がないこと

IPX4(防まつ形) : いかなる方向からの水の飛まつを受けても有害な影響がないこと

IPX5(防噴流形) : 注水ノズル(内径6.3mm)をすべての方向に使用して、3mの距離から、1分間1m²あたり約12.5リットルの水を3分間以上注入後、無線機として正常に機能すること

IPX7(防浸形) : 水深1mの静水(常温の水道水)に静かに沈め、30分間放置したのちに取り出して、無線機として動作すること

音声圧縮(符号化)方式について

本製品は、米国DVS社の開発したAMBE(Advanced Multi-Band Excitation)方式を採用しており、AMBE+2TM方式に対応しています。

The AMBE+2TM voice coding Technology embodied in this product is protected by intellectual property rights including patent rights, copyrights and trade secrets of Digital Voice Systems, Inc. This voice coding Technology is licensed solely for use within this Communications Equipment. The user of this Technology is explicitly prohibited from attempting to extract, remove, decompile, reverse engineer, or disassemble the Object Code, or in any other way convert the Object Code into a human-readable form. U.S. Patent Nos. #8,595,002, #8,359,197, #8,315,860, #8,200,497, #7,970,606 and #6,912,495 B2.

自動車運転時のご注意

◎安全運転のため、運転中に無線機を操作したり、無線機の表示部を注視(表示部を見つづける行為)したりしないでください。

◎無線機を操作、または表示部を注視する場合は、必ず安全な場所に自動車を停車させてください。

◎安全運転に必要な外部の音が聞こえない状態で自動車を運転しないでください。

一部の都道府県では、運転中にイヤホンやヘッドホンなどを使用することが規制されています。

◎安全運転のため、無線機を身体に付けた状態で運転しないでください。

電磁ノイズについて

以下に示すようなインバーター回路内蔵の電気製品、および電子機器の近くで使用すると、電磁ノイズの影響を受けて、正常に受信できないことがあります。

インバーター内蔵のおもな電子機器

◎LED照明器具 ◎電磁調理器 ◎給湯器
◎自動車に搭載された電子機器 ◎太陽光発電装置

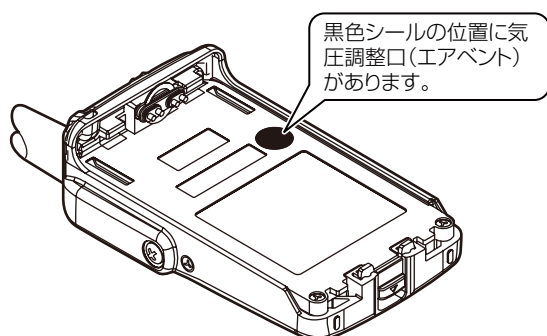
はじめに

気圧調整口(エアベント)について

◎黒色シールの上に、シールなどを貼り付けないでください。

黒色シールの位置に気圧調整口(エアベント)があり、この黒色シールの下にある空気を通す素材のシートによって、気圧を調整しています。

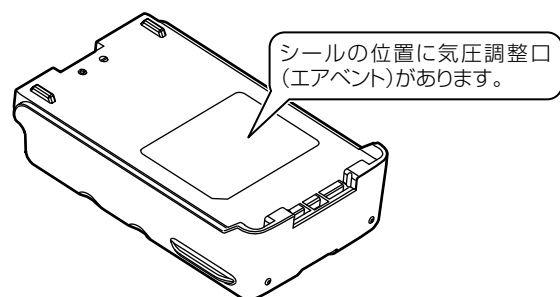
※黒色シールの上に、ほかのシールを貼るなどしてふさぐと、気圧調整ができなくなり、運用してしばらくすると、内蔵スピーカーからの音量が小さくなる現象が発生することがあります。



◎バッテリーパックに貼られているシールの上に、ほかのシールなどを貼り付けないでください。

シールの位置に気圧調整口(エアベント)があり、気圧を調整しています。

※シールの上に、ほかのシールを貼ると、気圧調整ができなくなり、防水性能が維持できません。



もくじ

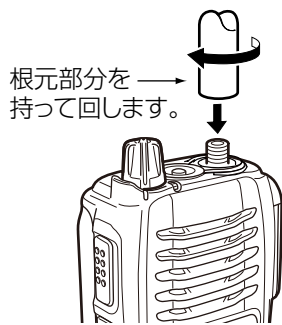
はじめに	i	7	そのほかの機能について	7-1
■ 本製品の概要	i	■ モニター機能	7-1	
■ 通信方式について	i	■ キーロック機能	7-1	
■ 電波法上のご注意	i	■ 強制終話機能	7-1	
■ 付属品	i	■ スキャン機能	7-1	
■ 取扱説明書の内容について	i	■ 呼び出し音機能	7-1	
■ 登録商標/著作権	i	■ 呼び出しメロディー機能	7-1	
■ 取り扱い上のご注意	ii	■ GPSデータ通信	7-1	
■ 海水が付着したときは？	ii	■ T102方式受信機能	7-	
■ 防塵/防水性能について	ii	■ ステータス通信	7-2	
■ 別売品の使用による防塵/防水性能について	ii	■ ショートメッセージ通信	7-2	
■ IP表記について	iii	■ ロングデータモード通信	7-3	
■ 音声圧縮(符号化)方式について	iii			
■ 自動車運転時のご注意	iii	8	設定モード	8-1
■ 電磁ノイズについて	iii	■ 設定項目一覧	8-1	
■ 気圧調整口(エアベント)について	iv	■ 設定モードに移行するには	8-1	
		■ 設定のしかた	8-2	
		■ 設定項目について	8-2	
1	ご使用前の準備	1-1		
■ 付属品の取り付け	1-1	9	別売品とその使いかた	9-1
■ ベルトクリップの取り付け(別売品)	1-1	■ 別売品についてのご注意	9-1	
■ 別売品を接続するには	1-1	■ ホームページに掲載	9-1	
■ バッテリーパックの取り付け(別売品)	1-1	■ 別売品一覧表	9-1	
■ 電源の入れかたと音量調整	1-2	■ アルカリ電池ケース使用時の運用時間	9-3	
		■ 安全な充電のために	9-3	
2	各部の名称と機能	2-1	■ バッテリーパック使用時の使用時間と充電時間	9-3
■ 前面部/側面部	2-1	■ 正しい充電のために	9-4	
■ 表示部(通話チャンネル表示)	2-2	■ バッテリーパックの特性と寿命について	9-4	
■ 電池の残量表示について	2-3	■ バッテリーパックの膨らみについて	9-4	
■ 電池の残量警告音について	2-3	■ 充電のしかた(BC-161 #22の場合)	9-4	
		■ 連結充電について	9-5	
3	通話のしかた(デジタルモード)	3-1	■ BC-161 #22のヒューズ交換について	9-5
■ 選択呼び出し機能による通話	3-1	■ BC-161 #22の定格について	9-5	
■ 通話するときのアドバイス	3-3	■ 充電のしかた(BC-208の場合)	9-6	
■ 呼出種別を変更するには	3-4	■ BC-208の定格について	9-6	
■ 呼出種別がユーザーコードのときの通話	3-5	■ 充電のしかた(BC-197の場合)	9-7	
■ ユーザーコードの確認と変更	3-6	■ BC-197の定格について	9-7	
		■ MB-97(ベルトクリップ)	9-8	
4	通話のしかた(アナログモード)	4-1	■ AD-52(イヤホンジャックアダプター)	9-8
■ 個別呼び出し機能ON時の通話	4-1	■ HM-109/HM-163A/HM-225		
■ 通話するときのアドバイス	4-3	(接話タイピン型マイクロホン)	9-8	
■ 呼出種別を変更するには	4-4	■ EH-12(ヘルメット取り付け型スピーカー)	9-8	
■ 個別呼び出し機能OFF時の通話	4-5	■ OPC-637		
		(マイクスイッチ内蔵型接続ケーブル)	9-9	
5	緊急機能	5-1	■ HS-92(ヘルメット取り付け型ヘッドセット)と	
■ 緊急呼び出し機能(エマージェンシー)	5-1	EH-11(イヤークリップ型スピーカー)の		
■ Lone Worker機能	5-2	組み立て	9-9	
■ マンダウン機能	5-2	■ UT-135(GPSドングル)	9-10	
		■ MB-86(回転式ベルトクリップ)	9-10	
6	メニュー画面について	6-1		
■ 項目一覧	6-1			
■ メニュー画面を表示するには	6-1			
■ 設定値を変更するには	6-1			
■ 項目について	6-2			

もくじ

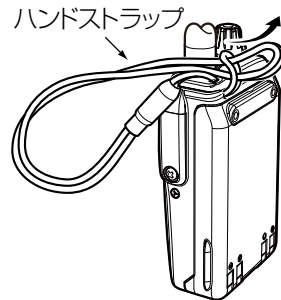
10 保守について	10-1
■ 日常の保守と点検	10-1
■ 防塵/防水性能維持の定期点検と保守	10-1
■ 弊社製無線機との相互使用	10-2
■ 故障かな?と思ったら	10-3
■ アフターサービス	10-4

■ 付属品の取り付け

【アンテナ】



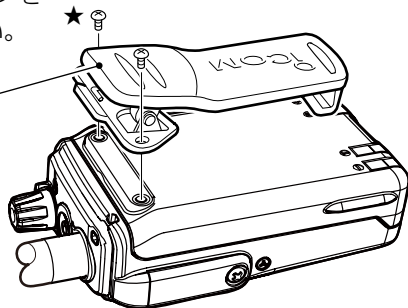
【ハンドストラップ】



■ ベルトクリップの取り付け(別売品)

★必ず付属のネジをご使用ください。

ベルトクリップ
(別売品:MB-98)



※ネジの長さは、ベルトクリップの種類(P.9-2)によって異なります。

故障の原因になりますので、ベルトクリップに付属するネジ以外は絶対に使用しないでください。

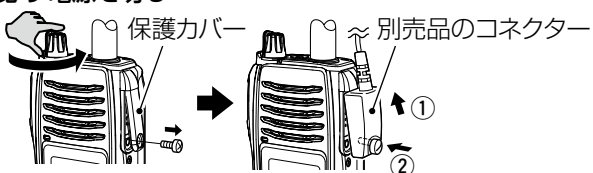
■ 別売品を接続するには

別売品を接続するときは、無線機の電源を切ってから接続してください。

1. 市販のドライバーを用意します。
2. 無線機の側面側にある保護カバー固定用のネジ(1本)をはずします。
3. 保護カバーをはずして、別売品のコネクター部分を図のように接続します。

※端子保護のため、必要がないときは、保護カバーを取り付けてご使用ください。

必ず電源を切る



■ バッテリーパックの取り付け(別売品)

ご購入後、はじめて、ご使用になるときは、必ずバッテリーパックを充電してください。

下記のバッテリーパックが使用できます。

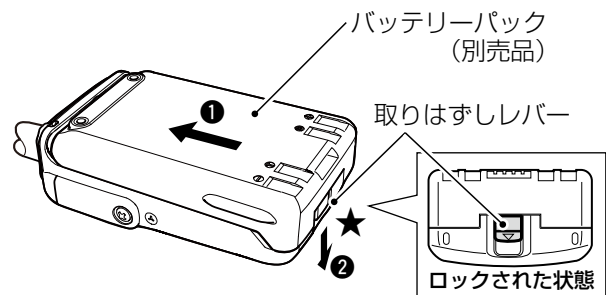
- ◎ BP-220N1 : 3200mAh min.
- ◎ BP-274 : 1800mAh min.
- ◎ BP-274N : 1880mAh min. (近日発売予定)

バッテリーパックを本体に密着させながら、[①]の方向にスライドさせます。

なお、本製品には、バッテリーパックとの接点部に防水用パッキンを取り付けています。

そのため、バッテリーパックを取り付けるときには、「カチッ」と音が鳴ってから、さらに[①]の方向に押し込んでください。

※取り付けるとき、バッテリーパックが無線機底面にある取りはずしレバーでロックされていることを確認します。



★取りはずしは、下記のことにご注意してください。

△警告

本製品やバッテリーパックがぬれたり汚れたりした状態で、充電しないでください。

本製品やバッテリーパック、または充電器の各端子がサビるなどして、故障の原因になります。

※充電方法については、9章(P.9-4～P.9-7)をご覧ください。

△注意

次のことを守らないと、指や爪をいためるおそれがあります。

バッテリーパックを取りはずすとき、バッテリーパックを[①]の方向に軽く押し込んで、取りはずしレバーが軽く動く状態になってから、[②]の方向に取りはずしレバーを押し下げてください。

1 ご使用前の準備

■ 電源の入れかたと音量調整

1 電源を入れる

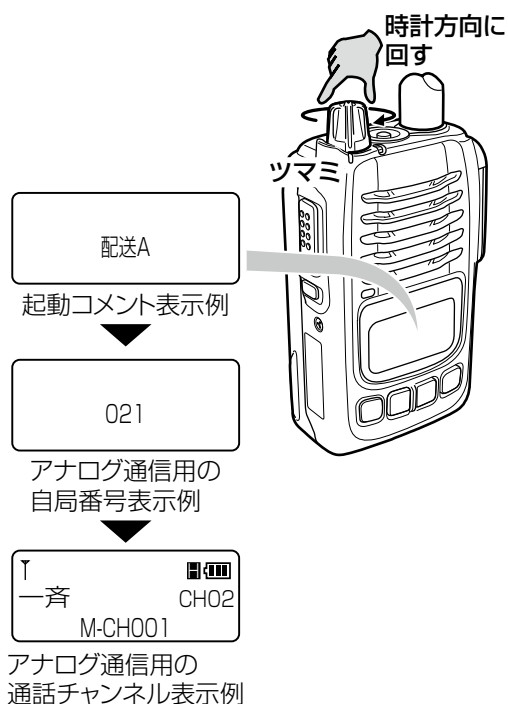
【電源/音量】ツマミを時計方向に回します。

- ・「カチッ」と音が鳴ります。

※照明は、約5秒後に自動で消灯します。

※反時計方向に回すと、電源が切れます。

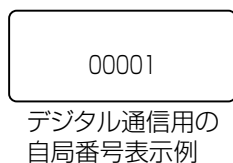
※起動コメント、自局番号の表示は、お買い上げの販売店にご依頼ください。



【自局番号表示の違い】

デジタル通信用(例:00001)と3桁仕様対応のアナログ通信用(例:021)があります。

前回、電源を切ったときの通話チャンネルがデジタル通信用かアナログ通信用かで異なります。



【起動パスワードの入力】

「パスワード?」と表示されるときは、パスワードの入力が必要です。

あらかじめ設定された順番どおりに、無線機本体のスイッチを押すと、パスワードが解除されます。

- ・パスワードを間違えると、「ブッ」と鳴って、「パスワード?」が表示されます。

※パスワード入力待ちのときは、「ピピッ」と繰り返し鳴ります。

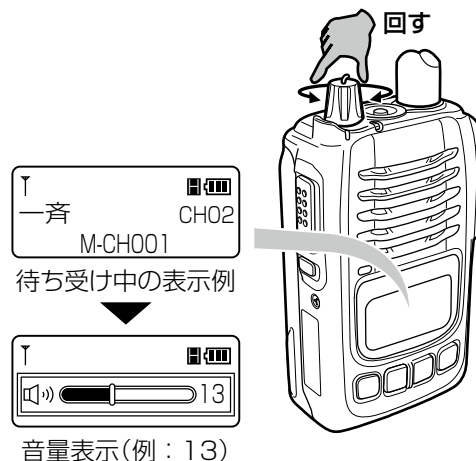
※設定された再入力可能回数を超えると、「端末ロック」が表示され、電源を切る以外の操作ができません。解除するには、お買い上げの販売店にご依頼ください。

2 音量を調整する

【電源/音量】ツマミを回します。

- ・調整範囲:0~32

※スイッチ操作や着信時の音量も変化します。



【音量を確認するには】

◎アナログ通信用の通話チャンネル選択時

モニター機能が割り当てされたスイッチを押します。

※【状態表示】ランプが緑色に点灯した状態で、「ザーッ」という音を聞いて調整します。

◎デジタル通信用の通話チャンネル選択時

受信中に、相手の音声聞きやすい音量に調整します。

※モニター機能に割り当てされたスイッチを押すと、

【状態表示】ランプが緑色に点灯しますが、「ザーッ」という音は出ません。

ご参考

◎モニター機能に割り当てるスイッチの設定は、お買い上げの販売店にご依頼ください。(P.7-1)

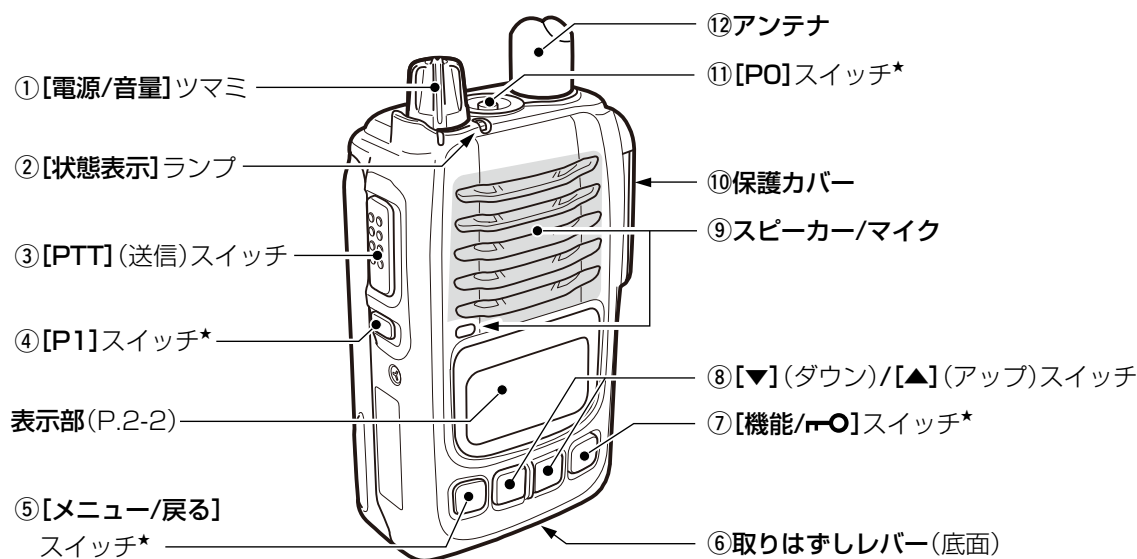
◎最小音量設定機能

音量の最小値(初期設定:0)を制限できます。

音量の最小値を制限することで、不用意に無線機の【電源/音量】ツマミを回したとき、受信音、スイッチ操作や着信時音が出なくなるのを防止できます。

最小値を制限(例:10)する場合は、お買い上げの販売店で設定が必要です。

■ 前面部/側面部



★[PO]、[P1]、[機能/↔O]、[メニュー/戻る]のスイッチに割り当てられている機能や長押し時間は、お買い上げ時の設定によって異なります。

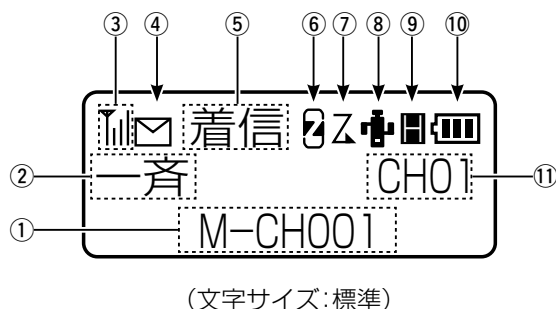
詳しくは、お買い上げの販売店にお問い合わせください。

①	[電源/音量] ツマミ 電源の「入」/「切」と音量(0～32)の調整をします。
②	[状態表示] ランプ ○電波を受信しているあいだは、緑色に点灯します。 ○電波を送信しているあいだは、赤色に点灯します。
③	[PTT] (送信) スイッチ 押しているあいだは送信状態、はなすと待ち受け状態に切り替わります。
④	[P1] スイッチ★ 着信中、または終話判定中に長く(約1秒)押すと、通話を強制的に終了します。
⑤	[メニュー/戻る] スイッチ★ 【通話チャンネル表示中】 長く(約1秒)押すと、メニュー画面を表示します。 【メニュー画面、設定モード画面表示中】 ○短く押すと、前の画面に戻ります。 ○メニュー画面表示中に長く(約1秒)押すと、通話チャンネル表示に戻ります。
⑥	取りはずしレバー バッテリーパック(別売品)の取りはずしをします。

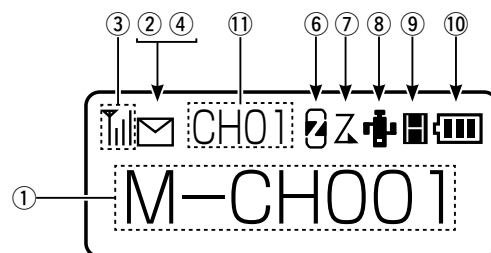
⑦	[機能/↔O] スイッチ★ 【通話チャンネル表示中】 長く(約1秒)押すごとに、キーロック機能を「ON」/「OFF」します。 【メニュー画面、設定モード画面表示中】 押すと、選択した項目や設定値を確定します。
⑧	[▼] (ダウン)/[▲] (アップ) スイッチ 【通話チャンネル表示中】 押すと、通話チャンネルが切り替わります。 【メニュー画面、設定モード画面表示中】 押すと、項目や設定値を選択します。
⑨	スピーカー/マイク スピーカーとマイクが内蔵されています。 別売品のスピーカーマイクロホンやヘッドセットなどを接続するときは、機能しません。
⑩	保護カバー 別売品のスピーカーマイクロホンやヘッドセットなどを接続するコネクタを保護します。 保護カバー(P.1-1)をはずすと、接続できます。
⑪	[PO] スイッチ★
⑫	アンテナ 電波を発射、または受信する部分です。

2 各部の名称と機能

■ 表示部(通話チャンネル表示)



(文字サイズ:標準)



(文字サイズ:大)

※文字サイズは設定モード(P.8-3)から変更できます。

①通話チャンネル表示

通話チャンネル番号が表示されます。

※お買い上げの販売店で通話チャンネルに名称が設定されていない状態では、通話チャンネル番号部分が名称(例:M-CH001)の一部として表示されます。

②呼出種別表示

◎アナログモードの個別呼び出し機能ON時、またはデジタルモードの選択呼び出し機能使用時、各通話チャンネルに設定された[一斉]/[グループ]/[個別]の各呼出種別が表示されます。

※文字サイズ(P.8-3)を「大」に設定時、未読ステータスや未読ショートメッセージがない場合は、☐(④)と同じ場所に、[一斉]/[グ](グループ)/[個](個別)が表示されます。

未読ステータスや未読ショートメッセージがあると、☐(④)が表示されるため、呼出種別(一斉/グループ/個別)は表示されません。

◎アナログモードの個別呼び出し機能OFF時、対象の通話チャンネルには、[アナログ]が表示されます。

※文字サイズ(P.8-3)を「大」に設定時、☐(④)と同じ場所に、[A](アナログ)が表示されます。

③電界強度表示

受信している電波の強さ(目安)が、右記の4段階で表示されます。



④☐(未読ステータス/未読メッセージ)

未読ステータス、または未読ショートメッセージがあるときの表示です。

⑤呼び出し状態表示

[送信]/[着信]/[通話]で表示されます。

⑥☎(秘話機能)

秘話機能が設定されているときの表示です。(P.6-5)

⑦Z(スキャン機能)

スキャン機能(P.7-1)の動作中、または一時停止中に表示されます。

⑧📶/📶(GPS状態表示)

GPS Dongle(別売品:UT-135)接続時、GPSの状態が表示されます。

📶:GPS衛星からの信号を受信(測位)していない状態

📶:GPS衛星からの信号を受信(測位)した状態

※GPS衛星からの信号を受信(測位)していない場合、ステータス着歴(P.6-3)、ショートメッセージ着歴(P.6-4)、音声着歴(P.6-4)の受信時刻には、「--:--」が表示されます。

⑨H/L/R

各通話チャンネルの送信出力設定が表示されます。

H:HIGH

L:LOW

R:受信専用

⑩🔋(電池残量)


電池残量が4段階で表示されます。(P.2-3)

⑪周波数チャンネル表示





周波数チャンネル番号が表示されます。

2 各部の名称と機能


■ 電池の残量表示について

 表示は、バッテリーパック、またはアルカリ電池ケースの電池残量に応じて変化します。

※残量が少なくなりましたら、バッテリーパックの場合は充電し、アルカリ電池ケースの場合は、新しいアルカリ乾電池と交換してください。


表示	残量表示の意味
	十分に容量があります。
	◎バッテリーパックの場合は、充電する時期です。 (長時間の運用はできません。) ◎アルカリ電池ケースの場合は、電池を交換する時期です。(長時間の運用はできません。)
	◎バッテリーパックの場合は、すぐに使えなくなりますので、充電が必要です。 ◎アルカリ電池ケースの場合は、電池の交換が必要です。
	ほとんど残量がなく、表示が点滅し、残量警告音が鳴ります。(無線機の運用はできません。)

■ 電池の残量警告音について

残量表示が 表示になると、残量警告音が「ピーピーピー」と、約30秒ごとに鳴ります。

警告音が鳴り出したらすぐに充電してください。



また、アルカリ電池ケースの場合は、BP-221 (別売品) に付属の取扱説明書を参考に、新しいアルカリ乾電池と入れ替えてください。

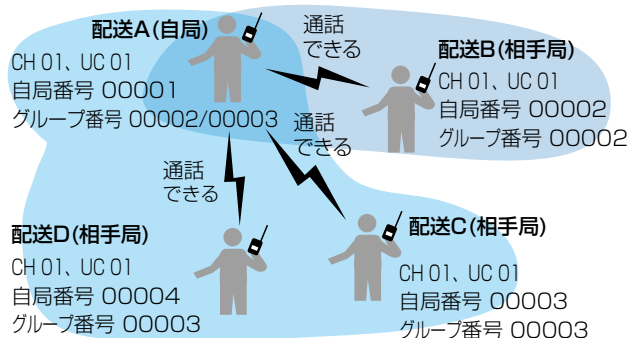
※ 表示の状態で使用すると、残量警告音が「ピーピーピー…」と2秒間鳴りつづけたあと、「電源OFF」と表示されてから、無線機の電源が自動的に切れます。

■ 選択呼び出し機能による通話


下図を例に、基本的な通話方法を説明します。

【使用例】

下図の   は、配送A(自局)が呼び出しできるグループを意味します。



※説明のため、送信ユーザーコードと受信ユーザーコードを同じ設定にしたときの例を使用しています。

ユーザーコードについては、「 呼出種別がユーザーコードのときの通話」をご覧ください。(P.3-5)

※選択呼び出し、ユーザーコードを使用するには、お買い上げの販売店での設定が必要です。

※グループ呼び出しで着信させるには、あらかじめ、お買い上げの販売店で、着信グループの設定が必要です。相手側の着信グループに含まれていないグループ番号に呼び出しをしても、着信しません。

※アナログ通信用の通話チャンネル選択時、個別呼び出し機能で通話できます。

個別呼び出し機能による通話については、「4.通話のしかた(アナログモード)」(P.4-1)をご覧ください。

※T102通信方式が設定されている無線機は、選択呼び出しはできません。

【周波数チャンネルの設定について】

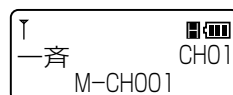
◎使用する周波数チャンネルは、あらかじめお買い上げの販売店で設定されています。

◎通話チャンネルに設定された周波数チャンネルの変更は、お買い上げの販売店にご依頼ください。

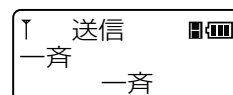
選択呼び出しには、次の3種類の方法があります。

※通話方法は、次ページで説明しています。

◎一斉呼び出し



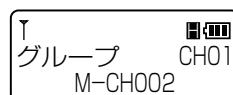
通話チャンネル表示



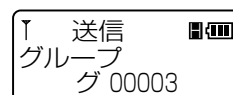
送信中の表示

周波数チャンネル(使用例:CH 01)とユーザーコード(使用例:UC 01)が同じ、全局(使用例:配送B/配送C/配送D)を一斉に呼び出します。

◎グループ呼び出し



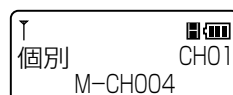
通話チャンネル表示



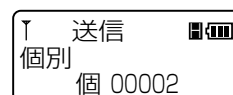
送信中の表示

周波数チャンネル(使用例:CH 01)とユーザーコード(使用例:UC 01)が同じで、着信グループに設定されたグループ番号(使用例:グループ 00003)に所属するすべての相手局(使用例:配送C/配送D)を呼び出します。

◎個別呼び出し



通話チャンネル表示



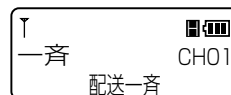
送信中の表示

周波数チャンネル(使用例:CH 01)とユーザーコード(使用例:UC 01)が同じで、呼び出す相手局(使用例:配送B)の自局番号(使用例:00002)を指定して呼び出します。

ご参考:番号表示の代わりに名称を表示させるには

M-CH001、M-CH002、M-CH004は、通話チャンネルに名称が設定されていないときの表示です。

※通話チャンネル番号、自局番号、相手局のユーザーコード、個別番号、グループ番号の代わりに、右図のよ



通話チャンネル名称表示例

うな名称表示(例:配送一斉)をご使用になる場合は、お買い上げの販売店にご依頼ください。

3 通話のしかた(デジタルモード)

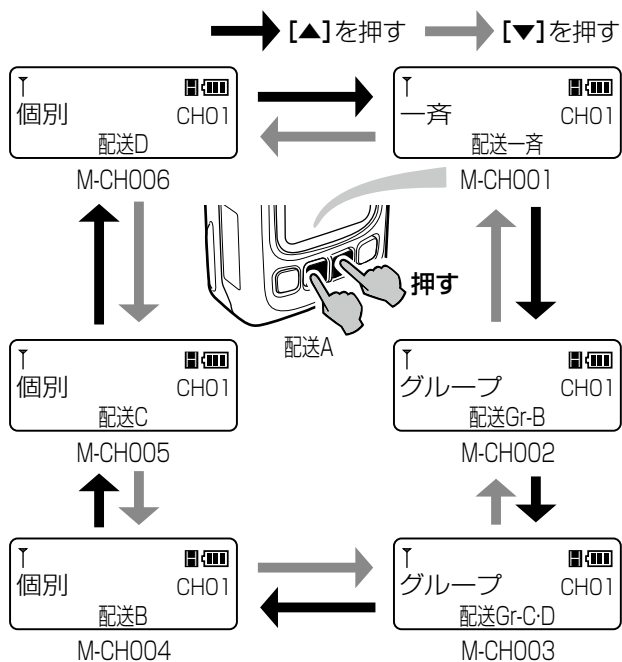
■ 選択呼び出し機能による通話(つづき)

1 通話チャンネルを切り替える

[▼]/[▲]を押して、相手と同じ通信モード(デジタル)の周波数チャンネル(例:CH01)、ユーザーコード(例:01)が設定された通話チャンネルに合わせます。

下図は、相手局を呼び出す方法(一斉/グループ/個別)を指定するときの通話チャンネル選択例です。

- ・一巡すると、「ピピッ」と鳴ります。



ご参考

アナログ通信で使用する通話チャンネルが設定されている場合、デジタル通信で使用する通話チャンネル、アナログ通信で使用する通話チャンネルの順番で、通話チャンネルが切り替わります。

2 呼び出しをする(送信する)

[PTT]を押しながら、マイクに向かって、通話相手に呼びかけます。

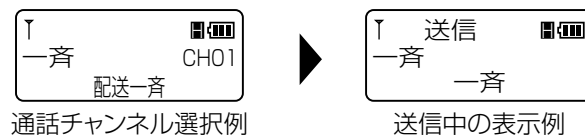
- ・ [PTT]を押しているあいだ、**[状態表示]**ランプが赤色に点灯します。



各呼出種別(一斉/グループ/個別)で送信中の表示です。

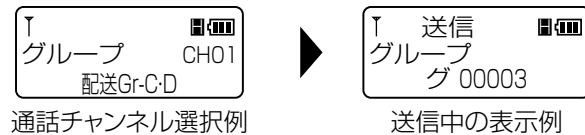
◎一斉

全局(配送B/配送C/配送D)を一斉に呼び出します。



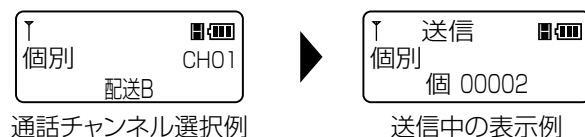
◎グループ

同じ着信グループ(例:配送C、配送D)に所属する相手局を呼び出します。



◎個別

1局(例:配送B)を指定して呼び出します。



【相手局が通信圏内かどうかを確認するには】

通信する双方の無線機にアンサーバック機能が設定されている場合、「個別」表示の通話チャンネルを選択した状態で、[PTT]を短く押すと、相手局(例:配送B)が通信圏内かどうか確認できます。

- ・ 相手局が通信圏内にいる場合は、**[状態表示]**ランプが赤色に1回点滅したあと、「ピッ」と鳴り、**[状態表示]**ランプが緑色に1回点滅します。

通信圏外など、相手に電波が届かない場合は、終話して、操作前の表示に戻ります。

※アンサーバック機能の設定は、お買い上げの販売店にご依頼ください。

※アンサーバック機能は、T102通信方式が設定されている無線機では使用できません。

3 通話のしかた(デジタルモード)

■ 選択呼び出し機能による通話(つづき)

3 呼び出しを受ける(受信する)

信号を受信すると、**【状態表示】**ランプが緑色に点灯します。

※待ち受け時は、どの呼出種別(一斉/グループ/個別)の通話チャンネルが選択されていても、相手局と同じ周波数チャンネル(例:CH01)であれば、信号を受信できます。

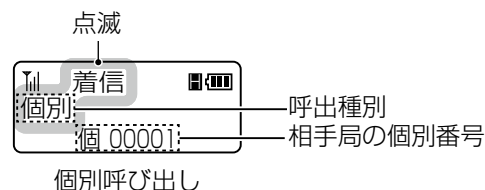
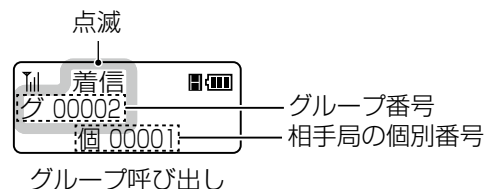
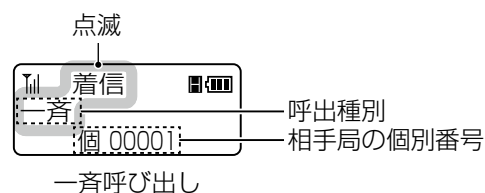


【応答するときは】

【状態表示】ランプの消灯(待ち受け状態)を確認後、**【PTT】**を押します。

◎選択呼び出しを受けたときの着信表示

呼出種別、またはグループ番号と、相手局の個別番号が表示されて、「着信」が点滅します。



■ 通話するときのアドバイス

マイクの使いかた

マイクに向かって話すときは、マイクと口元を約5cmはなし、普通に会話する大きさの声で通話してください。マイクを口元に近づけすぎたり、大きな声を出したりすると、めいりょう度が悪くなることがありますのでご注意ください。

通話する場所について

周囲の状況(天候、山や建物などの障害物)により、受信しにくくなる場合があります。

そのときは、場所を少し移動して通話してください。

また、テレビやラジオなどの家電製品、パソコン、および電話機などの近くで使用すると、雑音が発生したり、誤動作したりすることがありますので、はなれてご使用ください。

電波干渉について

比較的狭いエリアで、多くの局が通話するような状態では、電波の干渉(相互変調)による混信が発生することがあります。

このような混信は、グループごとに、周波数チャンネルの組み合わせを適切に設定することで防止できます。

着信中の送信制限機能について

送信しようとする通話チャンネルで、すでに通話中の局が存在した場合、**【PTT】**を押しても、「ブーブー」と鳴って、送信を禁止します。

送信できない場合は、他局の通話が終了後に送信しなおしてください。

※送信制限機能の設定が必要な場合は、お買い上げの販売店にご依頼ください。

3 通話のしかた(デジタルモード)

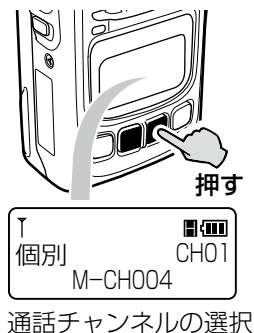
■ 呼出種別を変更するには

選択呼び出しの呼出種別を変更する手順を説明します。
※通話チャンネルを変更するか、電源を切ると、変更前の呼出種別に戻ります。

1 通話チャンネルを合わせる

【▼】/【▲】を押して、相手と同じ通話チャンネルに合わせます。

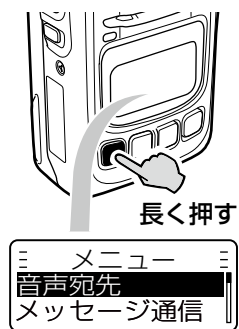
※選択した通話チャンネルに設定されている周波数チャンネルとユーザーコードが異なる相手とは、通話できません。



2 メニュー画面を表示する

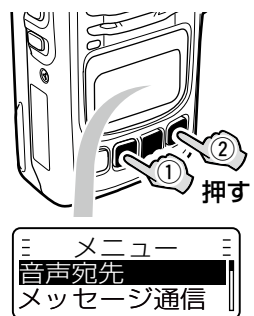
【メニュー/戻る】を長く(約1秒)押します。

- メニュー画面が表示されます。

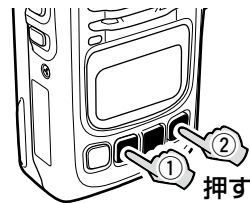


3 音声宛先を選択する

1. 【▼】/【▲】を押して、「音声宛先」を選択します。
 - 一巡すると、「ピピッ」と鳴ります。
2. 【機能/⏏】を短く押します。

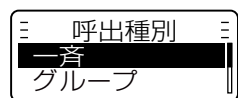


4 呼出種別を選択する



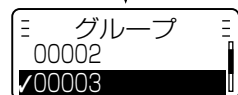
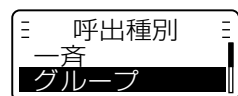
▶一斉に呼び出すときは

1. 【▼】/【▲】を押して、「一斉」を選択します。
2. 【機能/⏏】を短く押します。
 - 通話チャンネル表示に戻ります。



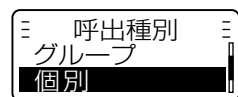
▶グループを呼び出すときは

1. 【▼】/【▲】を押して、「グループ」を選択します。
2. 【機能/⏏】を短く押します。
3. 【▼】/【▲】を押して、グループ番号を選択します。
4. 【機能/⏏】を短く押します。
 - 通話チャンネル表示に戻ります。



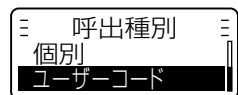
▶1局を呼び出すときは

1. 【▼】/【▲】を押して、「個別」を選択します。
2. 【機能/⏏】を短く押します。
3. 【▼】/【▲】を押して、個別番号を選択します。
4. 【機能/⏏】を短く押します。
 - 通話チャンネル表示に戻ります。



▶選択呼び出しを使用しないときは

1. 【▼】/【▲】を押して、「ユーザーコード」を選択します。
2. 【機能/⏏】を短く押します。
 - 通話チャンネル表示に戻ります。



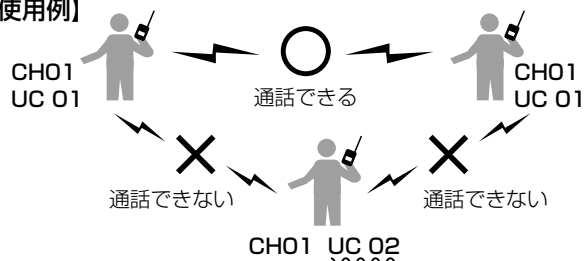
3 通話のしかた(デジタルモード)

■ 呼出種別がユーザーコードのときの通話

複数の通話相手と同じユーザーコード(UC)を設定すると、通話グループが構成できます。

周波数チャンネル(例:CH01)とユーザーコード(例:UC01)が一致したすべての相手呼び出せます。

【使用例】



※説明のため、送信ユーザーコードと受信ユーザーコードを同じ設定にしたときの例を使用しています。

送信側の送信ユーザーコードと受信側の受信ユーザーコードが異なる場合、通話できません。

送信と受信で異なるユーザーコードを設定することで、多様な通話グループを構成できます。

※秘話機能や選択呼び出し機能とも併用できます。

※アナログ通信用の通話チャンネル選択時、ユーザーコードによる呼び出しはできません。

※T102通信方式の無線機は、B54通信方式の無線機と通信できません。

※T102方式受信機能が設定されているB54通信方式の無線機は、T102通信方式の無線機から信号を受信できます。

【ユーザーコードの設定について】

◎使用するユーザーコードは、あらかじめお買い上げの販売店で設定されています。

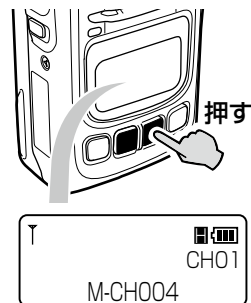
選択した通話チャンネルに設定されたユーザーコードの確認や一時的な変更は、「**■ ユーザーコードの確認と変更**」(P.3-6)の操作をしてください。

◎ユーザーコードを変更後、通話チャンネルを変更するか、電源を切ると、変更前のユーザーコードに戻ります。

1 通話チャンネルを合わせる

【▼】/【▲】を押して、相手と同じ通話チャンネル(例:M-CH004(CH01/UC01))に合わせます。

※右図は、選択呼び出し機能を併用せず、通話チャンネルにユーザーコードだけが設定されている場合の表示です。

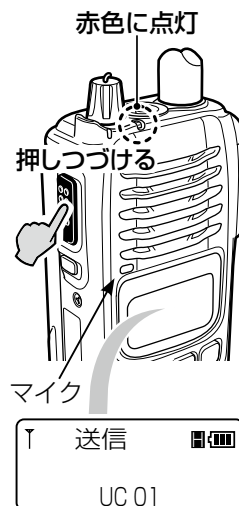


通話チャンネルの選択

2 呼び出しをする(送信する)

【PTT】を押しながら、マイクに向かって、通話相手に呼びかけます。

- 【PTT】を押しているあいだ、【状態表示】ランプが赤色に点灯します。



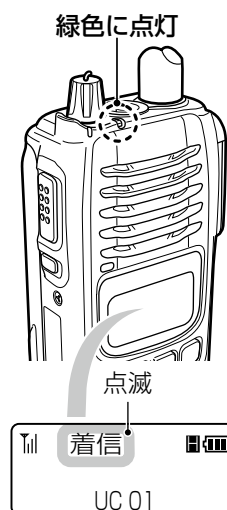
送信中の表示例

3 呼び出しを受ける(受信する)

信号を受信すると、【状態表示】ランプが緑色に点灯します。

【応答するとき】

【状態表示】ランプの消灯(待ち受け状態)を確認後、【PTT】を押します。



着信中の表示例

3 通話のしかた(デジタルモード)

■ ユーザーコードの確認と変更

ユーザーコードの確認と変更手順を説明します。

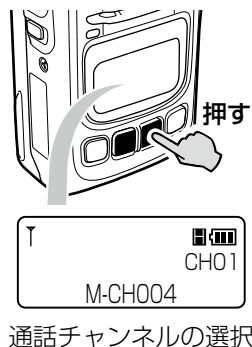
※使用できるユーザーコードの設定は、お買い上げの販売店にご依頼ください。

※通話チャンネルを変更するか、電源を切ると、変更前のユーザーコードに戻ります。

1 通話チャンネルを合わせる

【▼】/【▲】を押して、相手と同じ周波数チャンネル(例: CH01)が設定された通話チャンネル(例:M-CH004)に合わせます。

※選択した通話チャンネルに設定されている周波数チャンネルとユーザーコードが異なる相手とは、通話できません。



2 メニュー画面を表示する

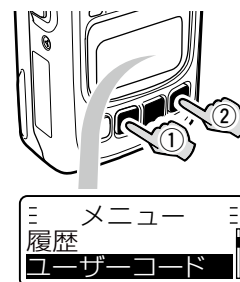
【メニュー/戻る】を長く(約1秒)押します。

- メニュー画面が表示されます。



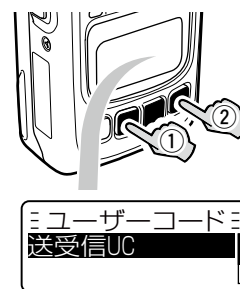
3 ユーザーコード画面を表示する

1. 【▼】/【▲】を押して、ユーザーコードを選択します。
2. 【機能/電源】を短く押します。
 - ユーザーコード画面が表示されます。



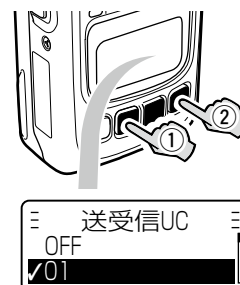
4 設定するユーザーコードを選択する

1. 【▼】/【▲】を押して、設定するユーザーコードを選択します。
 - ※送信用と受信用で異なるユーザーコードを設定する場合、[受信 UC]、[送信 UC]から選択します。
2. 【機能/電源】を短く押します。



5 ユーザーコードを設定する


1. 【▼】/【▲】を押して、ユーザーコードを選択します。
2. 【機能/電源】を短く押します。
 - 通話チャンネル表示に戻ります。

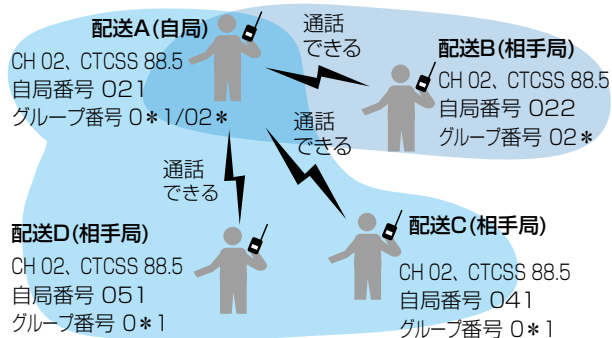


■ 個別呼び出し機能ON時の通話

下図を例に、基本的な通話方法を説明します。

【使用例】

下図の  は、アナログモード時、配送A(自局)が呼び出しできるグループを意味します。



※説明のため、CTCSS(連続トーン周波数)が送信と受信で同じ周波数に設定したときの例を使用しています。

※個別呼び出し、CTCSSを使用するには、お買い上げの販売店で設定が必要です。

※グループ番号の「* (アスタリスク)」の部分は、0～9のすべての番号が対象となります。

「0*1」の場合、*部分が0～9の10局が対象になります。

※グループ呼び出しで着信させるには、あらかじめ、お買い上げの販売店で、グループ番号の設定が必要です。

※デジタル通信用の通話チャンネル選択時、選択呼び出し機能で通話できます。

選択呼び出し機能による通話については、「3.通話のしかた(デジタルモード)」(P.3-1)をご覧ください。

【周波数チャンネルの設定について】

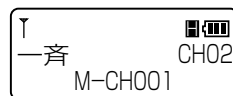
◎使用する周波数チャンネルは、あらかじめお買い上げの販売店で設定されています。

◎通話チャンネルに設定された周波数チャンネルの変更は、お買い上げの販売店にご依頼ください。

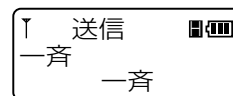
個別呼び出しには、次の3種類の方法があります。

※通話方法は、次ページで説明しています。

◎一斉呼び出し



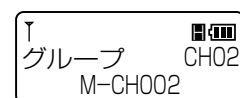
通話チャンネル表示



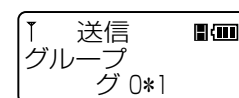
送信中の表示

周波数チャンネル(使用例:CH 02)と連続トーン周波数(使用例:88.5Hz)が同じ、全局(使用例:配送B/配送C/配送D)を呼び出します。

◎グループ呼び出し



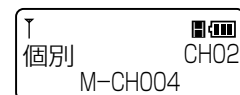
通話チャンネル表示



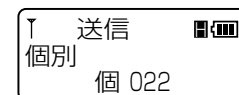
送信中の表示

周波数チャンネル(使用例:CH 02)と連続トーン周波数(使用例:88.5Hz)が同じで、宛先のグループ(使用例:0*1)に所属する相手局(使用例:配送C/配送D)を呼び出します。

◎個別呼び出し



通話チャンネル表示



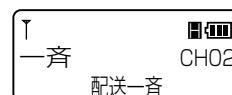
送信中の表示

周波数チャンネル(使用例:CH 02)と連続トーン周波数(使用例:88.5Hz)が同じで、呼び出す相手局(使用例:配送B)の自局番号(使用例:022)を指定して呼び出します。

ご参考:番号表示の代わりに名称を表示させるには

M-CH001、M-CH002、M-CH004は、通話チャンネルに名称が設定されていないときの表示です。

※通話チャンネル番号、自局番号、個別番号、グループ番号の代わりに、右図のような名称表示(例:配送一斉)をご使用になる場合は、お買い上げの販売店にご依頼ください。



通話チャンネル名称表示例

4 通話のしかた(アナログモード)

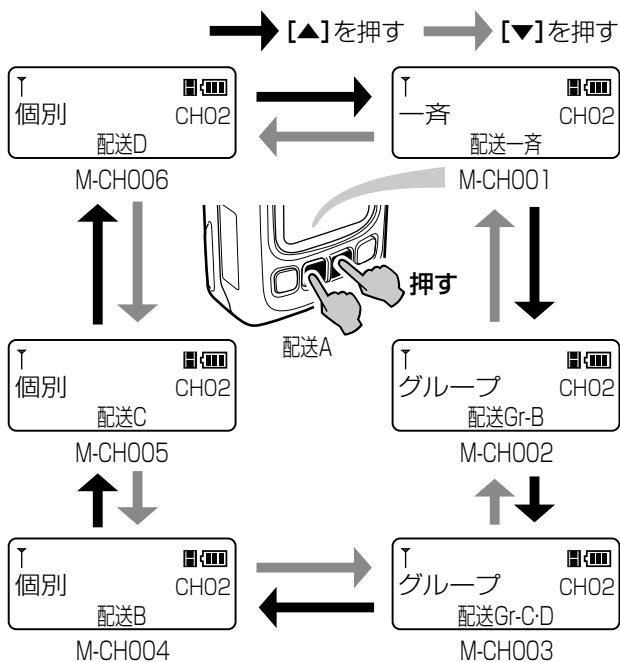
■ 個別呼び出し機能ON時の通話(つづき)

1 通話チャンネルを切り替える

[▼]/[▲]を押して、相手と同じ通信モード(アナログ)の周波数チャンネル(例:CH02)、連続トーン周波数(例:88.5Hz)が設定された通話チャンネルに合わせます。

下図は、相手局を呼び出す方法(一斉/グループ/個別)を指定するときの通話チャンネル選択例です。

- ・一巡すると、「ピピッ」と鳴ります。



ご参考

アナログ通信で使用する通話チャンネルが設定されている場合、デジタル通信で使用する通話チャンネル、アナログ通信で使用する通話チャンネルの順番で、通話チャンネルが切り替わります。

2 呼び出しをする(送信する)

[PTT]を押しながら、マイクに向かって、通話相手に呼びかけます。

- ・ [PTT]を押しているあいだ、**[状態表示]**ランプが赤色に点灯します。



各呼出種別(一斉/グループ/個別)で送信中の表示です。

◎一斉

全局(配送B/配送C/配送D)を呼び出します。



◎グループ

同じ宛先のグループ(例:0*1)に所属する相手局(例:配送B/配送C/配送D)を呼び出します。



◎個別

1局(例:配送B)を指定して呼び出します。



【相手局が通信圏内かどうかを確認するには】

通信する双方の無線機にアンサーバック機能が設定されている場合、「個別」表示の通話チャンネルを選択した状態で、[PTT]を短く押すと、相手局(例:配送B)が通信圏内かどうか確認できます。

- ・ 相手局が通信圏内にいる場合は、**[状態表示]**ランプが赤色に1回点滅したあと、「ピッ」と鳴り、**[状態表示]**ランプが緑色に1回点滅します。

通信圏外など、相手に電波が届かない場合は、終話して、操作前の表示に戻ります。

※アンサーバック機能の設定は、お買い上げの販売店にご依頼ください。

4 通話のしかた(アナログモード)

■ 個別呼び出し機能ON時の通話(つづき)

3 呼び出しを受ける(受信する)

信号を受信すると、[状態表示]ランプが緑色に点灯します。

※待ち受け時は、どの呼出種別(一斉/グループ/個別)の通話チャンネルが選択されていても、相手局と同じ周波数チャンネル(例:CH02)であれば、信号を受信できます。



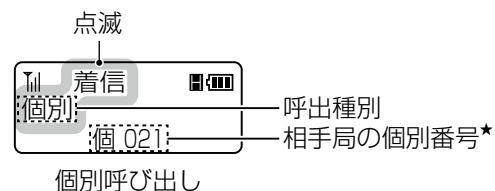
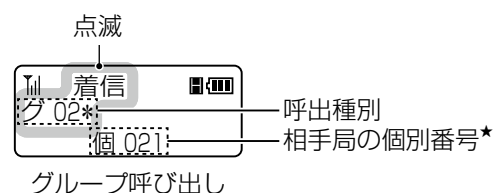
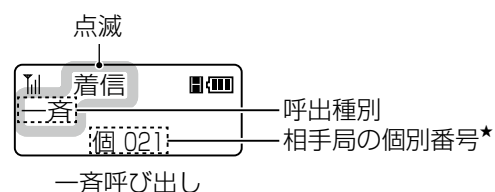
【応答するときは】

【状態表示】ランプの消灯(待ち受け状態)を確認後、[PTT]を押します。

◎選択呼び出しを受けたときの着信表示

呼出種別、またはグループ番号と、相手局の個別番号が表示されて、「着信」が点滅します。

★アンサーバック機能が双方の無線機に設定されていない場合、「個 ---」と表示されます。



■ 通話するときのアドバイス

マイクの使いかた

マイクに向かって話すときは、マイクと口元を約5cmはなし、普通に会話する大きさの声で通話してください。マイクを口元に近づけすぎたり、大きな声を出したりすると、めいりょう度が悪くなることがありますのでご注意ください。

通話する場所について

周囲の状況(天候、山や建物などの障害物)により、受信しにくくなる場合があります。

そのときは、場所を少し移動して通話してください。

また、テレビやラジオなどの家電製品、パソコン、および電話機などの近くで使用すると、雑音が発生したり、誤動作したりすることがありますので、はなれてご使用ください。

電波干渉について

比較的狭いエリアで、多くの局が通話するような状態では、電波の干渉(相互変調)による混信が発生することがあります。

このような混信は、グループごとに、周波数チャンネルの組み合わせを適切に設定することで防止できます。

着信中の送信制限機能について

送信しようとする通話チャンネルで、すでに通話中の局が存在した場合、[PTT]を押しても、「ブーブー」と鳴って、送信を禁止します。

送信できない場合は、他局の通話が終了後に送信しなおしてください。

※送信制限機能の設定が必要な場合は、お買い上げの販売店にご依頼ください。

4 通話のしかた(アナログモード)

■ 呼出種別を変更するには

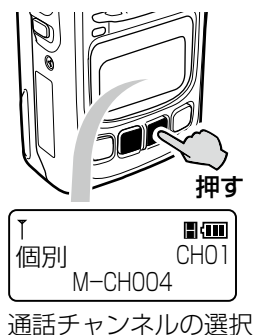
選択呼び出しの呼出種別を変更する手順を説明します。

※通話チャンネルを変更するか、電源を切ると、変更前の呼出種別に戻ります。

1 通話チャンネルを合わせる

[▼]/[▲]を押して、相手と同じ通話チャンネルに合わせます。

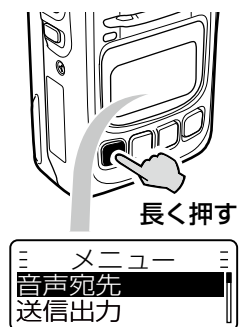
※選択した通話チャンネルに設定されている周波数チャンネルが異なる相手とは、通話できません。



2 メニュー画面を表示する

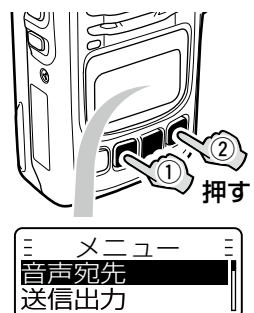
[メニュー/戻る]を長く(約1秒)押します。

- メニュー画面が表示されます。

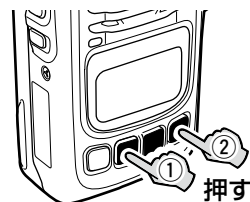


3 音声宛先を選択する

1. [▼]/[▲]を押して、「音声宛先」を選択します。
 - 一巡すると、「ピピッ」と鳴ります。
2. [機能/電源]を短く押します。

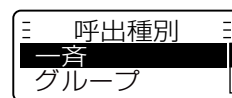


4 呼出種別を選択する



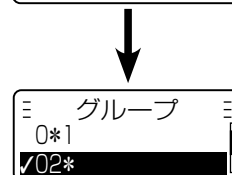
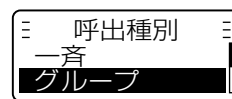
▶一斉に呼び出すときは

1. [▼]/[▲]を押して、「一斉」を選択します。
2. [機能/電源]を短く押します。
 - 通話チャンネル表示に戻ります。



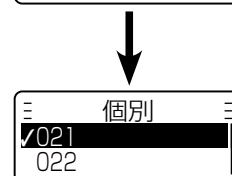
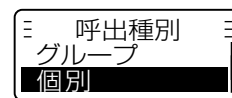
▶グループを呼び出すときは

1. [▼]/[▲]を押して、「グループ」を選択します。
2. [機能/電源]を短く押します。
3. [▼]/[▲]を押して、グループ番号を選択します。
4. [機能/電源]を短く押します。
 - 通話チャンネル表示に戻ります。



▶1局を呼び出すときは

1. [▼]/[▲]を押して、「個別」を選択します。
2. [機能/電源]を短く押します。
3. [▼]/[▲]を押して、個別番号を選択します。
4. [機能/電源]を短く押します。
 - 通話チャンネル表示に戻ります。

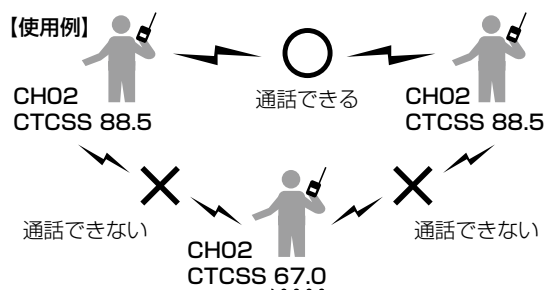


4 通話のしかた(アナログモード)

■ 個別呼び出し機能OFF時の通話

複数の通話相手と同じ連続トーン周波数(CTCSS)を設定すると、通話グループが構成できます。

周波数チャンネル(例:CH02)と連続トーン周波数(例:88.5Hz)が一致したすべての相手を呼び出せます。



※説明のため、CTCSS(連続トーン周波数)が送信と受信で同じ周波数に設定したときの例を使用しています。
送信側CTCSSと受信側CTCSSの周波数が異なる場合、通話できません。

送信と受信で異なるCTCSSを設定することで、多様な通話グループを構成できます。

※個別呼び出し機能とも併用できます。

※デジタル通信用の通話チャンネル選択時、CTCSSによる呼び出しはできません。

【周波数チャンネルの設定について】

◎使用する周波数チャンネルは、あらかじめお買い上げの販売店で設定されています。

◎通話チャンネルに設定された周波数チャンネルの変更は、お買い上げの販売店にご依頼ください。

【CTCSSの設定について】

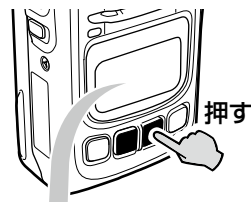
◎使用するCTCSS(連続トーン周波数)は、あらかじめお買い上げの販売店で設定されています。

◎通話チャンネルに設定されたCTCSSの変更は、お買い上げの販売店にご依頼ください。

1 通話チャンネルを合わせる

【▼】/【▲】を押して、相手と同じ周波数チャンネル(例:CH02)と連続トーン周波数(例:88.5Hz)が設定された通話チャンネル(例:M-CH001)に合わせます。

※右図は、個別呼び出し機能を併用せず、通話チャンネルに連続トーン周波数だけが設定されている場合の表示です。

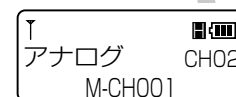


通話チャンネルの選択

2 呼び出しをする(送信する)

【PTT】を押しながら、マイクに向かって、通話相手に呼びかけます。

- 【PTT】を押しているあいだ、【状態表示】ランプが赤色に点灯します。



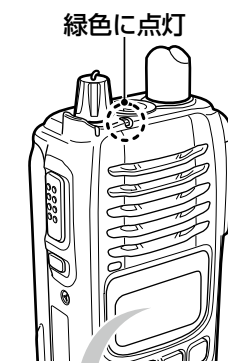
送信中の表示例

3 呼び出しを受ける(受信する)

信号を受信すると、【状態表示】ランプが緑色に点灯します。

【応答するときは】

【状態表示】ランプの消灯(待ち受け状態)を確認後、【PTT】を押します。



受信中の表示例

■ 緊急呼び出し機能(エマージェンシー)

迅速な連絡が必要な場合、指定した通話チャンネルに設定されている局に、緊急信号を送出して相手に「緊急」表示と警告音で通知します。

※ 緊急呼び出し機能の設定が必要な場合は、お買い上げの販売店にご依頼ください。

※ アナログ通信で使用する無線機で、個別呼び出し機能がOFFに設定されているときは、緊急呼び出しによる送信できません。(緊急信号を送信しないで、周囲に緊急状態を通知するアラームは使用できます。)

※ T102通信方式が設定されている無線機は、デジタル通信での緊急呼び出し機能を使用できません。

△ 警告

緊急呼び出し機能(エマージェンシー)は、大きな音量の警告音が連続で鳴ります。

本製品に外部スピーカー、またはスピーカー内蔵の外部電源を取り付けて、緊急呼び出し機能を使用する場合は、警告音の音量と【電源/音量】ツマミが連動するように設定されることをおすすめします。

設定は、お買い上げの販売店にご依頼ください。

【緊急呼び出し機能を正しく使用するには】

【P0】、【P1】、【機能/〇】、【メニュー/戻る】のいずれかに、緊急呼び出し機能を設定してください。

設定されていないときは、無線機操作による緊急呼び出しができません。

※ Lone Worker機能(P.5-2)、マウンドウン機能(P.5-2)を有効に設定しているときは、スイッチの設定に関わらず自動で緊急呼び出しをします。

※ スキャン機能(P.7-1)の動作中は、緊急呼び出しを正しく受信できないことがあります。

※ 緊急呼び出しの送信禁止に設定された通話チャンネルでは、緊急呼び出し機能を設定したスイッチを押しても送信できません。

※ あらかじめ設定した通話チャンネルにだけ、緊急呼び出しをします。

※ 緊急呼び出しやその呼び出しを受けているあいだは、【P1】の操作による強制終話(P.7-1)ができません。

下記のような場合、通知できなかったり、通知できても警告音が鳴らなかったりすることがあります。

○ 緊急送信しない(アラーム)設定がされている場合

○ 警告音を鳴らさない設定がされている場合

○ 警告音が音量調整と連動して変化するように設定されている場合

○ 電波状況の悪化により電波が届かない場合

○ 通話チャンネル表示以外の画面で、緊急呼び出し機能が設定されたスイッチを長く(5秒以上)押した場合

【緊急呼び出しの操作】

1. 相手と同じ通話チャンネルに合わせます。

2. 「緊急」と表示されるまで、緊急呼び出し機能が割り当てされたスイッチ(例:【P0】)を長く(5秒以上)押します。

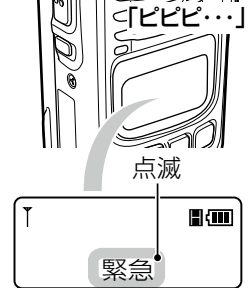
・ 警告音が「ピピピ…」と鳴って、一定の間隔ごとに【状態表示】ランプが赤色に点滅します。

※ アラームが設定されているときは、右図の状態でも緊急信号が送信されません。

設定の変更は、お買い上げの販売店にご依頼ください。

5秒以上押し
つづける

一定間隔で、
赤色に点滅



緊急呼び出しで送信中

3. 「緊急」表示が点滅した状態で、相手局から応答があるのを待ちます。

・ 応答があると、「緊急」表示の点滅が停止して、【状態表示】ランプが緑色に点灯します。

4. 通話をつづけます。

・ 終話すると、緊急呼び出しをする前の状態に戻ります。


※ 終話後、緊急呼び出し機能の動作を再開することもできます。

設定は、お買い上げの販売店にご依頼ください。

5 緊急機能

■ 緊急呼び出し機能(エマージェンシー)(つづき)

【緊急呼び出しを受けたときは】

1. **【状態表示】**ランプが緑色に1回点滅後、「ピピピ…」と警告音が鳴って、**【状態表示】**ランプが赤色に点滅します。
また、「緊急」表示が点滅し、「緊急相手局番号」が表示されます。
 - デジタル通信用の通話チャンネルで待ち受け時、ステータスを受信すると、「

★アナログ通信では、アンサーバック機能が双方の無線機に設定されていない場合、「個 ---」と表示されます。

2. **【PTT】**を押して、応答します。
 - 警告音が停止します。
3. 通話をつづけます。
 - 終話すると、緊急呼び出しを受ける前の状態に戻ります。

■ Lone Worker機能

本製品を一定時間操作しなかった場合、Lone Worker機能が動作します。

Lone Worker機能が動作すると、緊急呼び出し機能が自動的に動作します。

警備中などに定期連絡を義務付けている場合で、何らかの事故が発生して連絡ができなかった場合などに便利な機能です。

※メニュー画面から、「ON」/「OFF」を設定できます。

(P.6-6)

※Lone Worker機能の設定が必要な場合は、お買い上げの販売店にご依頼ください。

■ マンダウン機能

本製品を使用している人が倒れるなどして、本製品が60度以上傾いた状態が一定時間つづくと、マンダウン機能が動作します。

マンダウン機能が動作すると、緊急呼び出し機能が自動的に動作します。

※メニュー画面から、「ON」/「OFF」を設定できます。

(P.6-6)

※マンダウン機能の設定が必要な場合は、お買い上げの販売店にご依頼ください。

ご注意

本製品に搭載されている緊急呼び出し機能、Lone Worker機能、マンダウン機能は、電池の消耗、周囲の状況(天候、山や建物などの障害物)など、周囲の環境によっては、通信できないこともありますので、高度な信頼性が必要な用途に使用されることを目的としていません。

補助的な使用を目的とした機能としてご理解ください。

緊急呼び出し機能、Lone Worker機能、マンダウン機能を使用できないことが原因で発生したいかなる損害についても、弊社は一切その責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。

表示される項目は、お買い上げ時の設定、またはメニュー画面に入る前に選択されている通話チャンネルによって異なります。

詳しくは、お買い上げの販売店にお問い合わせください。

■ 項目一覧

下記の項目が表示されます。

項目名	参照
音声宛先 ^{★5}	P.6-2
メッセージ通信 ^{★1★3}	P.6-2
ステータス通信 ^{★1★3}	P.6-2
ショートメッセージ通信 ^{★1★3}	P.6-3
履歴 ^{★1★3}	P.6-3
ステータス着歴 ^{★1★3}	P.6-3
ショートメッセージ着歴 ^{★1★3}	P.6-4
音声着歴 ^{★1★3}	P.6-4
ユーザーコード ^{★1}	P.6-5
受信 UC ^{★1}	P.6-5
送信 UC ^{★1}	P.6-5
送受信UC ^{★1}	P.6-5
秘話 ^{★1★3}	P.6-5
送信出力	P.6-5
スキャン ^{★1}	P.6-6
緊急 ^{★3★4}	P.6-6
マンドアウン機能 ^{★3★4}	P.6-6
Lone Worker機能 ^{★3★4}	P.6-6
マイクゲイン	P.6-6
ノイズスケルチ ^{★2}	P.6-6

★1 デジタル通信で使用する通話チャンネルを選択しているときだけ、表示されます。

★2 アナログ通信で使用する通話チャンネルを選択しているときだけ、表示されます。

★3 B54通信方式に設定されている無線機だけ、表示されます。

★4 アナログモードの個別呼び出し機能がONに設定されている無線機で、アナログ通信で使用する通話チャンネルを選択しているときだけ、表示されます。

★5 B54通信方式に設定されている無線機で、デジタル通信で使用する通話チャンネルを選択しているとき、またはアナログモードの個別呼び出し機能がONに設定されている無線機で、アナログ通信で使用する通話チャンネルを選択しているときだけ、表示されます。

■ メニュー画面を表示するには

【操作のしかた】

【メニュー/戻る】を長く(約1秒)押します。

•メニュー画面が表示されます。

※デジタル通信用の通話チャンネル選択時のメニュー画面表示例です。

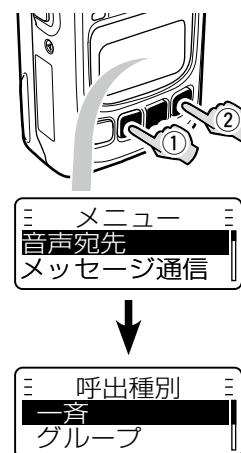


■ 設定値を変更するには

【操作のしかた】

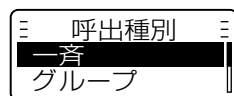
1. 【▼】/【▲】を押して、設定したい項目を選択します。
2. 【機能/↺○】を短く押します。
3. 手順1と手順2を繰り返して、設定項目を選択します。
4. 【▼】/【▲】を押して、設定値を選択します。
5. 【機能/↺○】を短く押します。

※【メニュー/戻る】を短く押すと、1つ前の画面に戻ります。
【メニュー/戻る】を長く(約1秒)押すと、通話チャンネル表示に戻ります。



■ 項目について

音声宛先



メニュー画面に入る前に選択されている通話チャンネルに対する音声通信(呼出種別)の宛先(一斉/グループ/個別、ユーザーコード)を一時的に変更します。

※通話チャンネルを切り替えるか、電源を切ると、変更前の設定に戻ります。

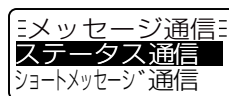
【デジタル通信用の通話チャンネル選択時】

- 一斉 : 周波数チャンネルとユーザーコードが同じ、全局を一斉に呼び出す
- グループ : 周波数チャンネルとユーザーコードが同じで、着信グループに設定されたグループ番号に所属するすべての相手局を呼び出す
- 個別 : 周波数チャンネルとユーザーコードが同じで、呼び出す相手局の自局番号を指定して呼び出す
- ユーザーコード : 選択呼び出し機能(P.3-1)を使用せず、周波数チャンネルとユーザーコードが一致したすべての相手を呼び出す

【アナログ通信用の通話チャンネル選択時】

- 一斉 : 周波数チャンネルと連続トーン周波数が同じ、全局を呼び出す
- グループ : 周波数チャンネルと連続トーン周波数が同じで、宛先のグループに所属する相手局を呼び出す
- 個別 : 周波数チャンネルと連続トーン周波数が同じで、呼び出す相手局の自局番号を指定して呼び出す

メッセージ通信



あらかじめ設定されたメッセージを送信できます。

メッセージには、ステータス通信とショートメッセージ通信(P.6-3)があります。

◇ステータス通信

ステータスを送信します。

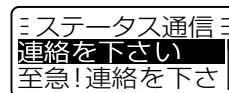
ステータスには、全角12文字(半角24文字)以内の内容があらかじめ登録されています。

※登録は、お買い上げの販売店にご依頼ください。

※選択した通話チャンネルに設定されている周波数チャンネルとユーザーコード(P.3-5)が異なる相手には、ステータスを送信できません。

【ステータスを送信するには】

1. ステータス通信画面で、送信するステータスを[▼]/[▲]を押して選択後、**【機能/Ⓜ○】**を短く押します。

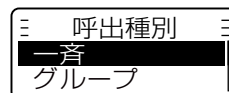


2. 選択したステータスの内容が表示されますので、**【機能/Ⓜ○】**を短く押します。

連絡を下さい

※長いメッセージは、[▼]/[▲]を押すと、スクロールされます。

3. **【▼】/[▲]**を押して、呼出種別を選択後、**【機能/Ⓜ○】**を短く押します。

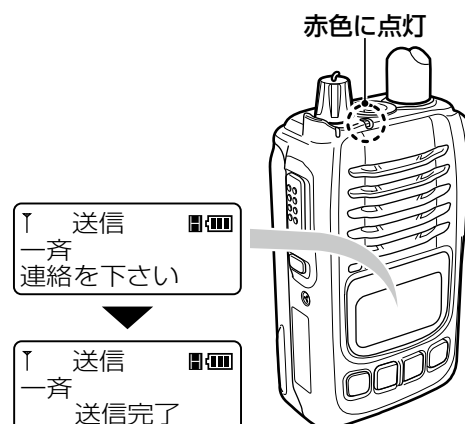


4. 手順3で「個別」、または「グループ」を選択した場合は、**【▼】/[▲]**を押して、個別番号、またはグループ番号を選択後、**【機能/Ⓜ○】**を短く押します。



• 手順2で選択したステータスが送信されます。

※受信したステータスの確認方法は、「履歴」項目の「◇ステータス着歴」(P.6-3)をご覧ください。



6 メニュー画面について

■ 項目について

メッセージ通信(つづき)


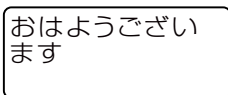
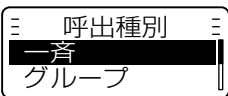

◇ショートメッセージ通信

あらかじめ登録された全角50文字(半角100文字)以内のショートメッセージを送信します。

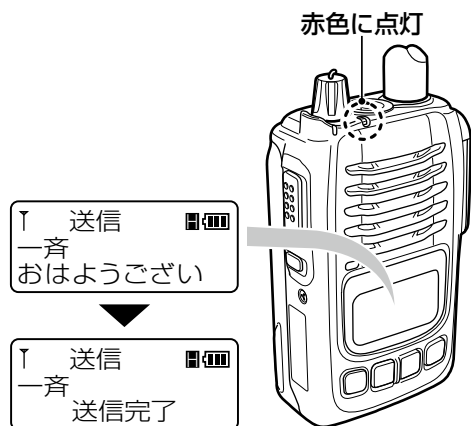
※登録は、お買い上げの販売店にご依頼ください。

※選択した通話チャンネルに設定されている周波数チャンネルとユーザーコード(P.3-5)が異なる相手には、ショートメッセージを送信できません。

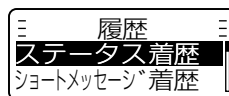
【ショートメッセージを送信するには】

1. ショートメッセージ通信画面で、**[▼]/[▲]**を押して選択後、**[機能/Ⓜ-○]**を短く押します。

2. 選択したショートメッセージの内容が表示されますので、**[機能/Ⓜ-○]**を短く押します。

3. **[▼]/[▲]**を押して、呼出種別を選択後、**[機能/Ⓜ-○]**を短く押します。

4. 手順3で「個別」、または「グループ」を選択した場合は、**[▼]/[▲]**を押して、個別番号、またはグループ番号を選択後、**[機能/Ⓜ-○]**を短く押します。
• 手順2で選択したショートメッセージが送信されます。


※受信したショートメッセージの確認方法は、「履歴」項目の◇ ショートメッセージ着歴」(P.6-4)をご覧ください。



履歴



ステータスの着信履歴、ショートメッセージの着信履歴(P.6-4)、音声着信履歴(P.6-4)を確認できます。

◇ステータス着歴

ステータスを1件以上受信したとき、相手局の個別番号、呼出種別、受信時刻、ステータスの内容が表示されます。


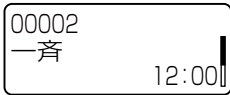
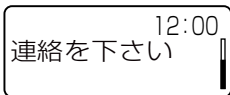
※ステータスは、30件まで記憶できます。

30件を超えると、古い着信履歴から消去されます。

※電源を切ると、着信履歴が消去されます。

※GPS衛星からの信号を受信(測位)していない場合(P.2-2)、受信時刻には、「-:-:-」が表示されます。

【ステータスの着信内容を確認するには】

1. ステータス着歴一覧画面で、**[▼]/[▲]**を押すと表示される着信履歴を選択後、**[機能/Ⓜ-○]**を短く押します。
※呼出種別に関わらず、ステータス着歴一覧画面には相手局の個別番号が表示されます。
※未読のステータスには「☐」、既読のステータスには「☑」が表示されます。

2. 相手局の個別番号、呼出種別、受信時刻、ステータスの内容が表示されます。
• **[▼]/[▲]**を押すと、表示をスクロールできます。



■ 項目について

履歴(つづき)

◇ショートメッセージ着歴

ショートメッセージを1件以上受信したとき、相手局の個別番号、呼出種別、受信時刻、ショートメッセージの内容が表示されます。

※ショートメッセージは、30件まで記憶できます。

30件を超えると、古い着信履歴から消去されます。

※電源を切ると、着信履歴が消去されます。

※GPS衛星からの信号を受信(測位)していない場合(P.2-2)、受信時刻には、「--:--」が表示されます。

【ショートメッセージの着信内容を確認するには】

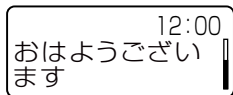
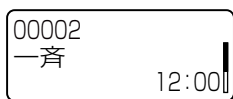
1. ショートメッセージ着歴一覧画面で、**【▼】/【▲】**を押すと表示される着信履歴を選択後、**【機能/Ⓜ○】**を短く押します。

※呼出種別に関わらず、ショートメッセージ着歴一覧画面には相手局の個別番号が表示されます。

※未読のショートメッセージには「**☐**」、既読のショートメッセージには、「**☐**」が表示されます。

2. 相手局の個別番号、呼出種別、受信時刻、ショートメッセージの内容が表示されます。

・**【▼】/【▲】**を押すと、表示をスクロールできます。



◇音声着歴

B54通信方式に設定された無線機から音声通信を1件以上受信したとき、相手局の個別番号、呼出種別、受信時刻が表示されます。

※音声着歴は、20件まで記憶できます。

20件を超えると、古い着信履歴から消去されます。

※電源を切っても、着信履歴は消去されません。

※T102通信方式が設定された無線機、およびアナログ通信で使用する通話チャンネルで信号を受信したときの着信履歴は、記憶されません。

※GPS衛星からの信号を受信(測位)していない場合(P.2-2)、受信時刻には、「--:--」が表示されます。

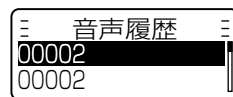
【音声着歴を確認するには】

1. 音声着歴一覧画面で、**【▼】/【▲】**を押すと表示される着信履歴を選択後、

【機能/Ⓜ○】を短く押します。

※呼出種別に関わらず、音声着歴一覧画面には相手局の個別番号が表示されます。

2. 相手局の個別番号、呼出種別、受信時刻が表示されます。



【音声着歴を利用して、呼び出しをするには】

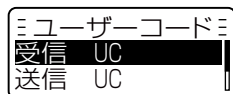
相手局の個別番号、呼出種別、受信時刻を表示した状態で**【PTT】**を押すと、表示している相手局に音声を送信できます。

※アナログ通信で使用する通話チャンネルを選択して音声着歴を表示した場合は、音声着歴を利用して呼び出しはできません。

6 メニュー画面について

■ 項目について(つづき)

ユーザーコード



メニュー画面に入る前に選択されている通話チャンネルに対するユーザーコードを一時的に変更します。

◇受信 UC

選択した通話チャンネルの受信ユーザーコード(UC)を一時的に変更します。



- 選択範囲: OFF、01～63
- ※設定は、お買い上げの販売店にご依頼ください。
- ※通話チャンネルを変更するか、電源を切ると、変更前の設定に戻ります。

◇送信 UC

選択した通話チャンネルの送信ユーザーコードを一時的に変更します。



- 選択範囲: OFF、01～63
- ※設定は、お買い上げの販売店にご依頼ください。
- ※通話チャンネルを変更するか、電源を切ると、変更前の設定に戻ります。

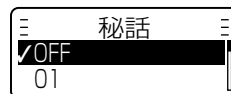
◇送受信UC

選択した通話チャンネルの受信ユーザーコードと送信ユーザーコードを一時的に変更します。



- 選択範囲: OFF、01～63
- ※設定は、お買い上げの販売店にご依頼ください。
- ※通話チャンネルを変更するか、電源を切ると、変更前の設定に戻ります。
- ※送信と受信で異なるユーザーコードを設定している場合は、受信ユーザーコードが表示されます。

秘話



秘話機能を使用すると、ほかの相手局に通話内容が傍受されるのを防止できます。




メニュー画面に入る前に選択されている通話チャンネルに対する鍵番号を一時的に変更します。

- 選択範囲: OFF、01～63
- ※設定は、お買い上げの販売店にご依頼ください。
- ※通話チャンネルを変更するか、電源を切ると、変更前の設定に戻ります。
- ※選択した通話チャンネルに設定されている周波数チャンネル、ユーザーコード、鍵番号が一致した相手局と通話できます。
- ※機密を要する重要な通話にご使用になることは、おすすめできません。また、無線機間の通話は、電波を使用している関係上、第三者による盗聴を完全に阻止できませんので、ご注意ください。

送信出力



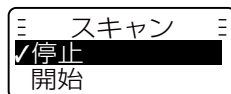
メニュー画面に入る前に選択されている通話チャンネルの送信出力を一時的に変更します。

- LOW : ローパワーに設定する
※が点灯します。
- HIGH : ハイパワーに設定する
※が点灯します。
- ※通話チャンネルを変更するか、電源を切ると、変更前の設定に戻ります。
- ※選択した通話チャンネルが受信専用の場合は、が点灯し、送信出力の切替はできません。

6 メニュー画面について

■ 項目について(つづき)

スキャン



スキャン機能を使用すると、周波数チャンネルを自動で切り替えて、使用中の周波数チャンネルを探し出せます。

- 停止 : スキャンを停止する
- 開始 : スキャンを開始する

※ 設定は、お買い上げの販売店にご依頼ください。

※ 通話チャンネルを変更するか、電源を切ると、スキャンを解除します。

◎ スキャン中は、「Z」が点灯します。

※ スキャン中、通話チャンネルの表示は変化しません。

◎ 着信したときは、スキャンを一時停止し、設定にしたがって再開します。

◎ スキャン中に【PTT】を押した場合、通話チャンネルに設定されている周波数チャンネルで送信します。

◎ スキャン中は、選択呼び出しや緊急呼び出しを正しく受信できないことがあります。

緊急



迅速な連絡が必要な場合、通話チャンネルが一致する局に、緊急信号を送出して相手に警告音で通知できます。

◇ マンダウン機能 (初期設定: OFF)

本製品を使用している人が倒れるなどして、本製品が 60 度以上傾いた状態が一定時間つづく

と、マンダウン機能が動作します。

マンダウン機能が動作すると、緊急通信機能が自動的に動作します。

- OFF : マンダウン機能を無効にする
- ON : マンダウン機能を有効にする

※ 設定は、お買い上げの販売店にご依頼ください。



緊急(つづき)

◇ Lone Worker機能

(初期設定: OFF)

本製品を一定時間操作しなかった場合、Lone Worker機能が動作します。



Lone Worker機能が動作すると、緊急通信機能が自動的に動作します。

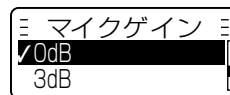
警備中などに定期連絡を義務付けている場合で、何らかの事故が発生して連絡ができなかった場合などに便利な機能です。

- OFF : Lone Worker機能を無効にする
- ON : Lone Worker機能を有効にする

※ 設定は、お買い上げの販売店にご依頼ください。

マイクゲイン

(初期設定: 0dB)



マイクの感度を設定します。(単位: dB)

- 選択範囲: -15(低)~0(中)~9(高) 3dB刻み

※ 【P1】を押すと、初期設定に戻ります。

※ 設定値を大きくすると比較的小さな声でも通信相手に聞こえやすくなりますが、周りの音も聞こえやすくなります。

ノイズスケルチ



受信する相手局の信号レベルの強弱に応じて、ノイズスケルチレベルを設定します。

- 選択範囲: 0(オープン)、1(浅い)~64(深い)

※ 【P1】を押すと、出荷時の設定に戻ります。

※ 設定値が小さい(浅い)ときは弱い信号でも受信できますが、設定値が大きい(深い)ときは強い信号だけを受信します。

ご参考

スケルチレベルは、検出電圧のわずかな違いが表示に反映されるため、同じ機種の場合でも個体差により出荷時の値が異なります。

■ モニター機能

モニター機能は、次のような場合に使用します。

◎アナログ通信で使用する通話チャンネルを選択後、受信音がない状態で、「ザーツ」という音を聞きながら音量を調整するとき

◎デジタル通信で使用する通話チャンネルを選択後、ユーザーコード、個別番号、グループ番号が異なる他局の通話を聞くとき

※秘話機能を使用している他局の信号を受信した場合は、秘話処理された電子音だけが聞こえます。

※設定は、お買い上げの販売店にご依頼ください。

【操作のしかた】

モニター機能に割り当てられたスイッチを押します。

押しているあいだモニター機能が動作するか、押すごとに動作を切り替えるかは、設定によって異なります。

■ キーロック機能

不用意に無線機のスイッチに触れたりしても、設定や表示が変わらないようにします。

【操作のしかた】

「ビピッ」と鳴るまで、**【機能/ON/OFF】**を長く(約1秒)押します。

・「キーロック」が表示されます。

※同じ操作をすると、解除できます。

【キーロック中にできる操作】

◎キーロック機能の解除

◎送信/受信

◎パスワードの入力

◎緊急呼び出し

◎モニター機能の「ON」/「OFF」

◎設定モードの移行

◎電源の「入」/「切」と音量調整★

★設定モードの「キーロック時動作」(P.8-2)を「全キーロック」に設定した場合、キーロック中の音量調整はできません。

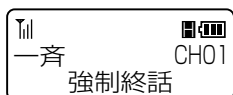
【音量についてのご注意】

キーロック機能動作中に、**【電源/音量】**ツマミを回したときは、キーロック機能の解除と同時に、設定された音量で受信音が聞こえてきますので、**【電源/音量】**ツマミの位置にはご注意ください。

■ 強制終話機能

着信中に**【P1】**を長く(約1秒)押すと、通話を強制的に終了します。

※強制終話した場合、**【状態表示】**ランプが緑色に点灯したまま、右の画面を表示します。



■ スキャン機能

スキャン機能を使用すると、周波数チャンネルを自動で切り替えて、使用中の周波数チャンネルを探し出せます。メニュー画面から、開始と停止ができます。(P.6-6)

※設定は、お買い上げの販売店にご依頼ください。

■ 呼び出し音機能

呼び出しを受けたとき、着信をビープ音、またはメロディー音で通知する機能です。

※設定は、お買い上げの販売店にご依頼ください。

※相手局からユーザーコードによる呼び出し、一斉呼び出し、またはグループ呼び出しを受けたときは、鳴りません。

■ 呼び出しメロディー機能

呼び出し音機能を設定したときの呼び出し音をメロディー音(9種類)に設定できます。

※設定は、お買い上げの販売店にご依頼ください。

■ GPSデータ通信

ARIB STD-B54方式で利用できる通信です。

GPS Dongle(別売品:UT-135)を接続しているとき、位置情報と自局番号を送信できます。

※設定は、お買い上げの販売店にご依頼ください。

※T102通信方式が設定されている無線機は、GPSデータ通信はできません。

※選択している通話チャンネルに設定されている周波数チャンネルとユーザーコード(P.3-5)が異なる相手には、GPSデータを送信できません。

※送信できる位置情報は、緯度、経度、高度です。

※送信中は**【状態表示】**ランプが赤色に点灯し、他局からGPSデータを受信中は、**【状態表示】**ランプが緑色に点灯します。

※無線機からは、位置情報を確認できません。

位置情報を受信すると、無線機に接続されたデータ端末装置などの機器に受信した位置情報を出力します。

■ T102方式受信機能

B54通信方式に設定されている無線機で、T102通信方式が設定されている無線機の信号を受信できます。

※設定は、お買い上げの販売店にご依頼ください。

■ ステータス通信

ARIB STD-B54方式で使用できる通信です。

ステータスを送信します。

ステータスには、全角12文字(半角24文字)以内の内容が、あらかじめ登録されています。

◎ステータスの送信については、6-2ページをご覧ください。

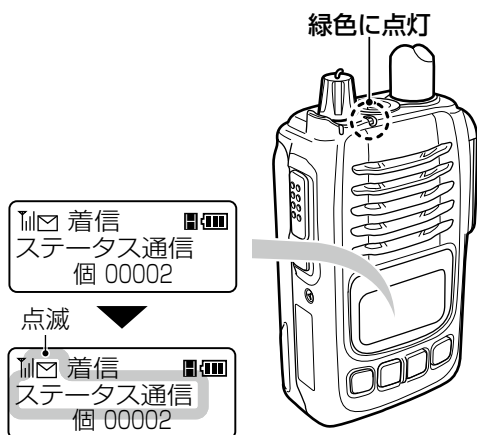
◎送信するステータスは、最大207件登録できます。

※設定は、お買い上げの販売店にご依頼ください。

※T102通信方式が設定されている無線機は、ステータスを送受信できません。

※選択している通話チャンネルに設定されている周波数チャンネルとユーザーコード(P.3-5)が異なる相手には、ステータスを送信できません。

【受信中の表示】



◎ステータスを受信後、表示が点滅しているあいだに、**【機能/〇】**を短く押すと、受信したステータスが既読になり、内容を確認できます。

◎受信したステータスの確認は、メニュー画面の「履歴」項目の「◇ ステータス着歴」(P.6-3)をご覧ください。

■ ショートメッセージ通信

ARIB STD-B54方式で使用できる通信です。

あらかじめ登録された全角50文字(半角100文字)以内のショートメッセージを送信します。

◎ショートメッセージの送信については、6-3ページをご覧ください。

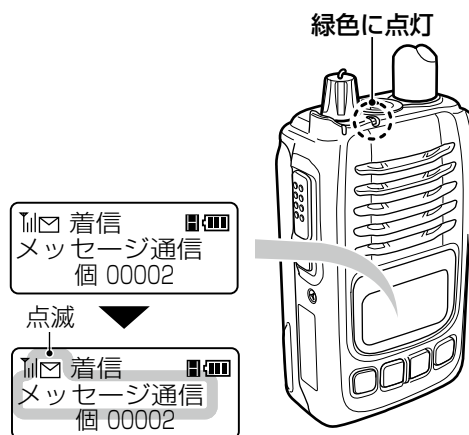
◎送信するショートメッセージは、最大10件登録できます。

※設定は、お買い上げの販売店にご依頼ください。

※T102通信方式が設定されている無線機は、ショートメッセージを送受信できません。

※選択している通話チャンネルに設定されている周波数チャンネルとユーザーコード(P.3-5)が異なる相手には、ショートメッセージを送信できません。

【受信中の表示】



◎ショートメッセージを受信後、表示が点滅しているあいだに、**【機能/〇】**を短く押すと、受信したショートメッセージが既読になり、内容を確認できます。

◎受信したショートメッセージの確認は、メニュー画面の「履歴」項目の「◇ ショートメッセージ着歴」(P.6-4)をご覧ください。

7 そのほかの機能について

■ ロングデータモード通信

ARIB STD-B54方式で使用できる通信です。

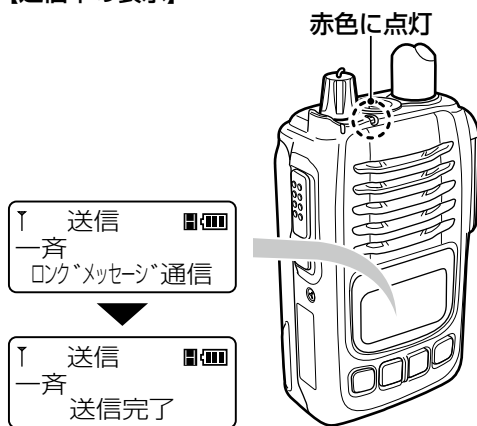
ロングデータモード通信用外部機器接続ケーブルでデータ端末装置などの機器と接続することで、ロングメッセージの伝達ができます。

※設定は、お買い上げの販売店にご依頼ください。

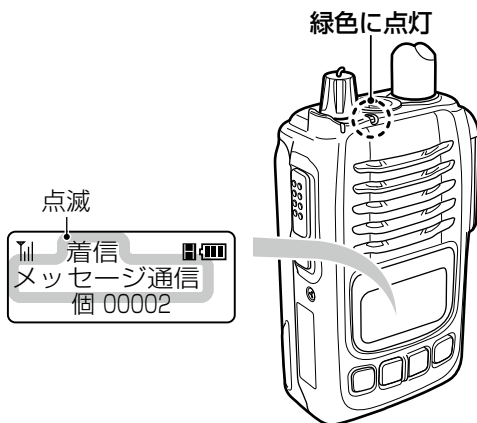
※T102通信方式が設定されている無線機は、ロングメッセージを送受信できません。

※選択している通話チャンネルに設定されている周波数チャンネルとユーザーコード(P.3-5)が異なる相手には、ロングメッセージを送信できません。

【送信中の表示】



【受信中の表示】



表示される項目は、お買い上げ時の設定によって異なります。

詳しくは、お買い上げの販売店にお問い合わせください。

■ 設定項目一覧

下記の項目が表示されます。

設定名	設定項目名	初期値	参照
操作設定	キーロック時動作	音量のみ可	P.8-2
喚起音設定	キー操作音	ON	P.8-2
	送信モニタービープ	OFF	P.8-2
	終話信号受信音	OFF	P.8-2
表示設定	バックライト動作	操作時点灯	P.8-3
	LCDコントラスト	17	P.8-3
	文字サイズ	標準	P.8-3
オプション設定	外部電源	AUTO	P.8-3

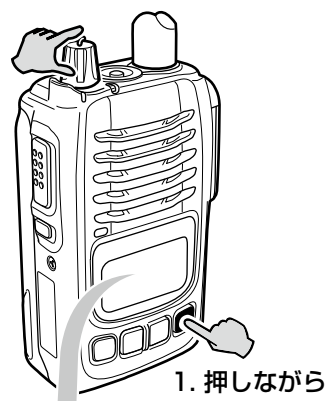
■ 設定モードに移行するには

設定モードを解除するまで、送信や受信ができません。

【操作のしかた】

1. 本製品の電源を切ります。
2. **【機能/⏻】**を押しながら、**【電源/音量】**ツマミを時計方向に回します。

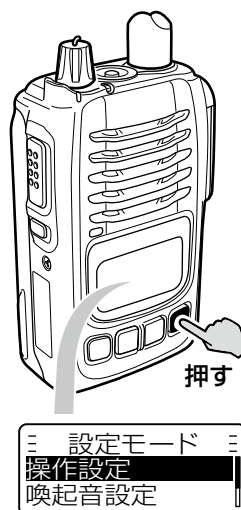
2. 電源を入れる



モード変更

3. 「モード変更」と表示されて、「ピッ」と鳴ったら、すべてのスイッチから手をはなして、1秒以内に**【機能/⏻】**を短く押します。

- 「ピピッ」と鳴ったあと、「設定モード」と設定項目が表示されていれば、設定モードに移行しています。



8 設定モード

■ 設定のしかた

設定モードに移行後、下記の手順で各機能の設定を変更できます。

【操作のしかた】

1. **【▼】/【▲】**を押して、設定したい項目を選択します。

2. **【機能/⏻】**を短く押します。

3. 手順1と手順2を繰り返して、設定する項目を選択します。

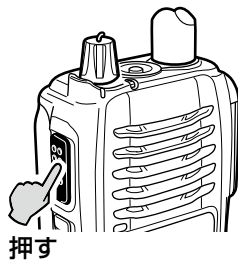
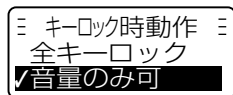
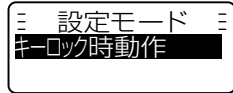
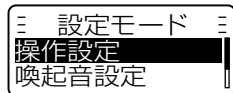
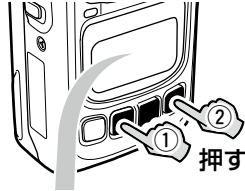
4. **【▼】/【▲】**を押して、設定を選択します。

5. **【機能/⏻】**を短く押します。

6. **【PTT】**を押します。

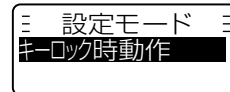
- 選択した設定を確定し、設定モードが解除されます。

※設定変更後に、電源を切った場合でも、設定内容が確定されます。



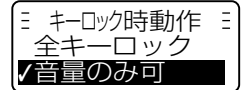
■ 設定項目について

操作設定



◇**キーロック時動作** (初期設定: 音量のみ可)

キーロック機能動作中の音量操作の設定です。



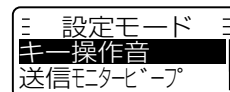
- 全キーロック: **【キーロック中にできる操作】**を除くすべての操作を無効にする
- 音量のみ可: キーロック中にできる操作として、音量調整も有効にする

※ **【P1】**を押すと、初期設定に戻ります。

【キーロック中にできる操作】

- ◎ キーロック機能の解除
- ◎ 送信/受信
- ◎ パスワードの入力
- ◎ 緊急呼び出し
- ◎ モニター機能の「ON」/「OFF」
- ◎ 設定モードの移行
- ◎ 電源の「入」/「切」

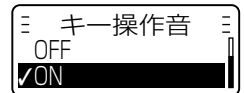
喚起音設定



◇**キー操作音** (初期設定: ON)

スイッチの操作音の設定です。

- OFF: 操作音を鳴らさない
- ON: 操作音を鳴らす



※ **【P1】**を押すと、初期設定に戻ります。

◇**送信モニタービープ** (初期設定: OFF)

送信したとき、送信側の無線機が通話できる状態であることを知らせるビープ音の設定です。

- OFF: ビープ音を鳴らさない
- ON: ビープ音を「ピッ」と鳴らす

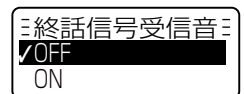


※ **【P1】**を押すと、初期設定に戻ります。

◇**終話信号受信音** (初期設定: OFF)

相手が終話したことを通知するビープ音の設定です。

- OFF: ビープ音を鳴らさない
- ON: ビープ音を「ピッ」と鳴らす

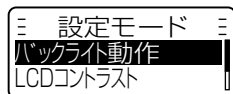


※ **【P1】**を押すと、初期設定に戻ります。

8 設定モード

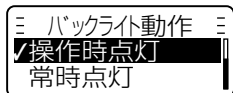
■ 設定項目について(つづき)

表示設定



◇バックライト動作 (初期設定:操作時点灯)

表示部と各スイッチのバックライト動作を設定します。



- 操作時点灯 :送信以外の操作をすると、照明が約5秒点灯する
- 常時点灯 :電源を切るまで消灯しない
- 常時消灯 :点灯しない

※ [P1]を押すと、初期設定に戻ります。

◇LCDコントラスト (初期設定:17)

表示部のコントラスト(濃淡)を設定します。

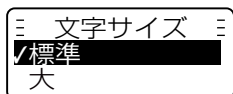


- 選択範囲:1(淡)～25(濃)

※ [P1]を押すと、初期設定に戻ります。

◇文字サイズ (初期設定:標準)

通話チャンネル表示の文字サイズを設定します。



- 選択範囲:標準、大

※ [P1]を押すと、初期設定に戻ります。

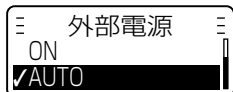
※「大」に設定したとき表示できる文字数は、最大で全角4文字(半角8文字)です。

オプション設定



◇外部電源 (初期設定:AUTO)

外部接続端子からの外部電源出力の設定です。



- OFF :外部電源出力を無効にする
- ON :外部電源出力を有効にする
- AUTO :外部接続端子に別売品を接続したときに外部電源出力を有効にする

※ [P1]を押すと、初期設定に戻ります。

■ 別売品についてのご注意

弊社製別売品は、本製品の性能を十分に発揮できるように設計されていますので、必ず弊社指定の別売品をお使いください。

弊社指定以外の別売品とのご使用が原因で生じる無線機の破損、故障あるいは動作や性能については、保証対象外とさせていただきますので、あらかじめご了承ください。

■ ホームページに掲載

別売品一覧については、弊社ホームページ

<https://www.icom.co.jp/> でもご覧いただけます。

■ 別売品一覧表

★:IP67の防塵/防水性能があります。

※防塵/防水性能は、「IP表記について」(P.iii)をご覧ください。

バッテリー関係

BP-220N1*:リチウムイオンバッテリーパック
(3200mAh min.)

BP-274N*:リチウムイオンバッテリーパック(近日発売予定)
(1880mAh min.)

BP-274*:リチウムイオンバッテリーパック
(1800mAh min.)

BP-221:アルカリ電池ケース(単3形アルカリ乾電池×5本)

充電する

BC-161 #22:卓上急速充電器
※電源には、別売品のBC-165が必要です。

BC-165:ACアダプター(BC-161 #22用の電源)

BC-121NA:6連急速充電器
※電源には、別売品のBC-157S/OPC-656が必要です。
※使用方法については、BC-121NAに付属の取扱説明書をご覧ください。

BC-157S:ACアダプター(BC-121NA/BC-197用の電源)

OPC-656:DC電源ケーブル(BC-121NA/BC-197用)

BC-197:6連急速充電器
※BC-157S付属

BC-208:急速充電器
※電源には、別売品のBC-123Sが必要です。

BC-123S:ACアダプター(BC-208用の電源)

無線機を保護する

LC-153:ハードケースS(BP-274N/BP-274用)

LC-154:ハードケースL(BP-220N1/BP-221用)

LC-164T:ハードケースS(BP-274N/BP-274用)
※装着した状態でスイッチ操作と充電(BC-161 #22を使用時)ができます。

LC-166T:ハードケースL(BP-220N1/BP-221用)
※装着した状態でスイッチ操作と充電(BC-161 #22を使用時)ができます。

イヤホン関係

EH-13:耳かけ型イヤホン(プラグ:φ2.5mm)
※ケーブル長:約50cm
※HS-92のいずれかでお使いになります。

EH-14:オープンエア型イヤホン
(プラグ:φ2.5mm)
※HM-104、HM-104A、HM-109、HM-163A
のいずれかでお使いになります。

EH-15:イヤホン(プラグ:φ2.5mm)
※EH-15B(黒色)
※HM-104、HM-104A、HM-109、HM-163A、
SP-32のいずれかでお使いになります。

SP-16:耳かけ型イヤホン(プラグ:φ3.5mm)
※ケーブル長:約50cm
※SP-16B(黒色)/SP-16BW(黒色/ロングケーブル:約1m)
※AD-52、HM-186SJ、SP-32のいずれかでお使いになります。

SP-28:耳かけ型イヤホン(プラグ:φ2.5mm)
※ケーブル長:約45cm
※HM-104、HM-104A、HM-109、HM-163A
のいずれかでお使いになります。

SP-29:耳かけ型イヤホン(プラグ:φ3.5mm)
※ケーブル長:約97cm
※SP-29L(L型プラグ:φ3.5mm)
※AD-52、HM-186SJのいずれかでお使いになります。

SP-31:耳かけ型イヤホン(防水コネクタ付き)
(HM-159FS/HM-159SJ専用)

SP-32:チューブ式イヤホンアダプター
※EH-15、EH-15B、SP-16、SP-16B、SP-16BW
のいずれかでお使いになります。

9 別売品とその使いかた

■ 別売品一覧表(つづき)

- ★1: IP67の防塵/防水性能があります。
- ★2: IPX7の防塵/防水性能があります。
- ★3: IP54の防塵/防水性能があります。
- ★4: IPX4の防塵/防水性能があります。

スピーカーマイクロホン関係

- HM-159FS^{★2}**: 防水形スピーカーマイクロホン
 ※MB-122、SP-31を組み合わせてもお使いになれます。
 ※イヤホン装着時も、スピーカーから音が出ます。
- HM-159SJ^{★2}**: 防水形スピーカーマイクロホン
 ※MB-122、SP-31を組み合わせてもお使いになれます。
 ※ご使用になるには、外部電源制御の設定をお買い上げの販売店にご依頼ください。
- HM-172^{★1}**: 防水形スピーカーマイクロホン
 ※ご使用になるには、外部電源制御の設定をお買い上げの販売店にご依頼ください。
- HM-183SJ^{★2}**: 防水形スピーカーマイクロホン
- HM-186SJ**: 小型スピーカーマイクロホン
 ※SP-16、SP-16B、SP-16BW、SP-29、SP-29Lのいずれかと組み合わせてもお使いになれます。

スピーカー関係

- EH-11**: イヤーパッド型スピーカー
 (プラグ: $\phi 2.5\text{mm}$)
 ※9-9ページと併せてご覧ください。
- EH-12**: ヘルメット取り付け型スピーカー
 (プラグ: $\phi 2.5\text{mm}$)
 ※ヘルメットのストラップに取り付けて使用します。
 ※9-8ページと併せてご覧ください。

腰にかける

- MB-86**: 回転式ベルトクリップ
- MB-97**: ベルトクリップ(ステンレス製)
 ※MB-97をバッテリーパックに装着した状態では、BC-208(急速充電器)、BC-197(6連急速充電器)で充電できません。
- MB-98**: ベルトクリップ
- MB-122**: ベルトクリップ(ステンレス製)
 ※HM-159FS/HM-159SJ専用

肩にかける

- MB-57L**: ショルダーストラップ
 ※LC-153、LC-154、LC-164T、LC-166Tのいずれかでお使いになれます。
- MB-80**: ショルダーストラップ(BP-220N1/BP-221/BP-274N/BP-274用)
 ※LC-153、LC-154、LC-164T、LC-166Tのいずれかでお使いになれます。

変換アダプター/アンテナ

- AD-52**: イヤホンジャックアダプター
 (ジャック: $\phi 3.5\text{mm}$)
 ※9-8ページと併せてご覧ください。
- FA-S73U^{★1}**: IC-DU60S3用短縮型アンテナ
 ($\phi 12.5 \times 50\text{mm}$)

マイクロホン/ヘッドセット関係

- HM-104**: 単一指向性タイピン型マイクロホン
 ※HM-104A(無指向性タイピン型マイクロホン)
 ※EH-14、EH-15、SP-28のいずれか、およびOPC-637、OPC-2277のいずれかでお使いになれます。
- HM-109**: 接話タイピン型マイクロホン
 ※9-8ページと併せてご覧ください。
- HM-163A**: 接話タイピン型マイクロホン
 (防水コネクター/金属クリップ)
 ※9-8ページと併せてご覧ください。
- HM-225**: GPS Dongle用接話タイピン型マイクロホン
 ※9-8ページと併せてご覧ください。
 ※UT-135(GPS Dongle)と組み合わせてもお使いになれます。
- HS-88A**: ヘッドセット
 ※OPC-637、OPC-2277のいずれかでお使いになれます。
- HS-92**: ヘルメット取り付け型ヘッドセット(ワニ口で固定)
 ※9-9ページと併せてご覧ください。
- HS-99**: 耳かけ式イヤホンマイクロホン
 ※VS-2SJ(別売品)と併せてご用意ください。
- OPC-637**: マイクスイッチ内蔵型接続ケーブル(ノンロック仕様)
 ※9-9ページと併せてご覧ください。
- OPC-2277^{★3}**: 通話スイッチ内蔵型接続ケーブル
 ※HS-88A、HS-92、HM-104、HM-104Aのいずれかでお使いになれます。
 ※ご使用になるには、外部電源制御の設定をお買い上げの販売店にご依頼ください。
- VS-2SJ^{★4}**: VOXユニット
 ※HS-99と併せてご用意ください。
 ※ご使用になるには、外部電源制御の設定をお買い上げの販売店にご依頼ください。

G P S 関係

- UT-135^{★2}**: GPS Dongle
 ※UT-135を装着した状態では、LC-164T(ハードケースS)、LC-166T(ハードケースL)は使用できません。
 ※ご使用になるには、外部電源制御の設定をお買い上げの販売店にご依頼ください。
 ※9-10ページと併せてご覧ください。

9 別売品とその使いかた

■ アルカリ電池ケース使用時の運用時間

名 称			BP-221
使用時間	送信出力	1W	約5時間
		5W	約40分
	【条件】送信5、受信5、待ち受け90の割合で繰り返し運用		

※アルカリ電池ケースは、防塵/防水構造ではありません。
 ※使用条件やアルカリ乾電池の種類(製造元など)により、使用時間が大きく異なることがあります。

また、アルカリ乾電池の特性により、低温では使用時間が短くなります。

■ 安全な充電のために

△危険

◎充電するときは、必ず指定の充電器をご使用ください。

◎指定(BP-220N1/BP-274N/BP-274)以外のバッテリーパックは、絶対に充電しないでください。

◎別紙の「ご注意と保守について」を併せてお読みになり、正しい方法で充電してください。

△警告

本製品やバッテリーパックがぬれたり汚れたりした状態で、充電しないでください。

本製品やバッテリーパック、または充電器の各端子がサビるなどして、故障の原因になります。

※バッテリーパックに異常があると思われるときは、使用を中止して、お買い上げの販売店、または弊社サポートセンターにお問い合わせください。

■ バッテリーパック使用時の使用時間と充電時間

名 称 定 格 項 目			BP-220N1
電池の種類			リチウムイオン
電池の容量			3200mAh min. / 3350mAh typ.
出力電圧			7.2V
寸 法 (幅×高さ×奥行)			56×91×21.9 【条件】突起物は含まず/【単位】mm
使用時間	パワーセーブ	ON	約15時間
		OFF	約13時間
	【条件】送信5、受信5、待ち受け90の割合で、繰り返し運用		
充 電 時 間			約4時間30分
			【条件】 BC-161 #22、BC-121NA、BC-197を使用時
			約5時間 【条件】 BC-208を使用時

名 称 定 格 項 目			BP-274N	BP-274
電池の種類			リチウムイオン	
電池の容量			1880mAh min./ 2000mAh typ.	1800mAh min./ 1900mAh typ.
出力電圧			7.4V	
寸 法 (幅×高さ×奥行)			56×91×14.0 【条件】 突起物は含まず/【単位】mm	
使用時間	パワー セーブ	ON	約9時間	
		OFF	約8時間	
	【条件】 送信5、受信5、待ち受け90の割合で、繰り返し運用			
充電時間			約2時間30分	
			【条件】 BC-161 #22、BC-121NA、 BC-197を使用時	
			約3時間 【条件】 BC-208を使用時	

■ 正しい充電のために

バッテリーパックを無線機本体に装着した状態で充電するときは、必ず無線機の電源を切ってください。
電源を入れたまま充電すると、正常に充電できないことがあります。

- ◎ お買い上げいただいたときや、約2ヵ月以上充電しなかったときは必ず充電してください。
- ◎ バッテリーパックは、使い切らずに継ぎ足し充電ができますので、常に満充電にしてご使用ください。
なお、満充電した直後に再充電しないでください。
- ◎ 満充電、または完全に使い切った状態で長期間放置すると、バッテリーパックの寿命が短くなるおそれがあります。
長期間バッテリーパックを保管する場合は、満充電のあと、残量表示が【II】の状態になるまで使用し、無線機から取りはずした状態で保管してください。
- ◎ 極端に高温、または低温の環境下や、バッテリーパックと充電器の温度差が大きい場合、充電できないことがあります。
充電器は、次の環境でご使用ください。
BC-161 #22(卓上急速充電器) : 0~40℃
BC-121NA(6連急速充電器) : 10~40℃
BC-197(6連急速充電器) : 10~40℃
BC-208(急速充電器) : 0~40℃
- ◎ 充電口や充電端子各部にゴミやホコリが付着すると、正常に充電できないことがありますので、乾いた布などで、各端子を定期的にふいてください。

■ バッテリーパックの特性と寿命について

- ◎ バッテリーパックは、消耗品です。
充電できる回数は、300回~500回が目安です。
充電状況を定期的に確認してください。いつもより発熱しているなどバッテリーパックに異常があると思われるときは、使用を中止してください。
- ◎ 発火や火災の原因になることがありますので、劣化したバッテリーパックは使用しないでください。
- ◎ 使用せずに保管しているだけでも、劣化が進行します。
- ◎ 劣化がはじまると、充電が完了しても使用時間が短くなります。
- ◎ 充電が完了しても、使用時間が極端に短くなったときは寿命です。
無線機の性能を十分活用するため、長くても5年以内の交換をおすすめします。

■ バッテリーパックの膨らみについて

下記のような環境や条件で使用をつづけると、バッテリーパックの性質や特性により、内部が劣化し膨張することがあります。

- ◎ ひんぱんに充電している
 - ◎ 満充電直後でも再充電している
 - ◎ 高温な場所で使用・保管している
 - ◎ 本書で説明する充電方法と異なる
- バッテリーパックが膨張した場合は、劣化に伴う寿命ですので、新しいものと交換してください。

■ 充電のしかた(BC-161 #22の場合)

ご購入後、はじめてご使用になるときは、必ずバッテリーパックを充電してください。

※BC-161 #22には、BC-165(BC-161 #22の電源)を付属していません。

BC-165も併せて、ご購入ください。

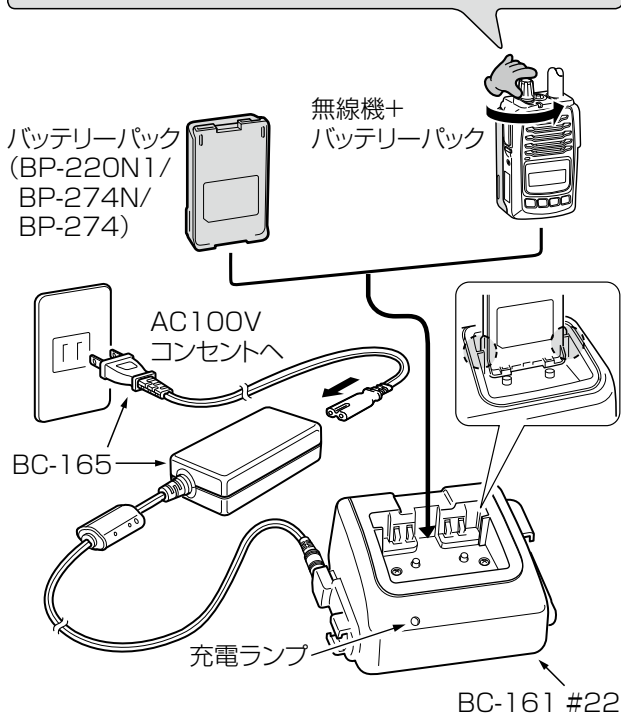
※BC-161 #22の電源には、必ずBC-165をご使用ください。

バッテリーパックを単体、または無線機に装着した状態で急速充電できます。

充電ランプは、充電中に橙色、充電完了で緑色に点灯します。

充電するときは、必ず無線機の電源を切ってください。

※電源を入れたまま充電すると、正常に充電できないことがあります。



【充電中に充電ランプが交互点滅(橙/緑)になるときは】

無線機の電源を入れた状態で充電しているときは、無線機の電源を切った状態で充電してください。

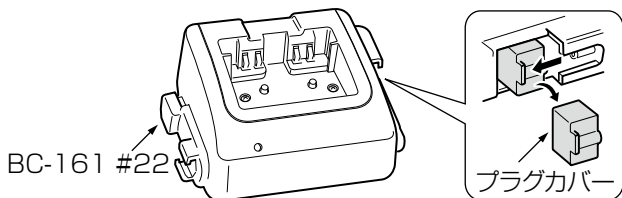
※充電状況が変化しない場合は、バッテリーパックの故障、または寿命ですので、お買い上げの販売店、または弊社サポートセンターにお問い合わせください。

9 別売品とその使いかた

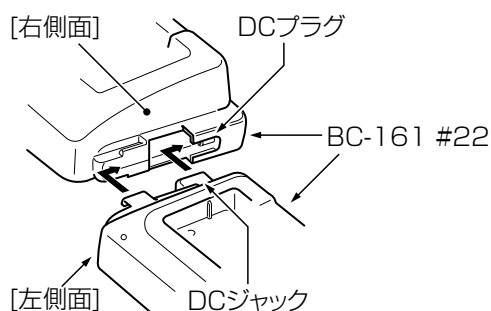
■ 連結充電について

BC-161 #22を最大4台まで連結して、同時に充電できます。

1. BC-161 #22の右側面に差し込まれているプラグカバーを図の方向に取りはずします。

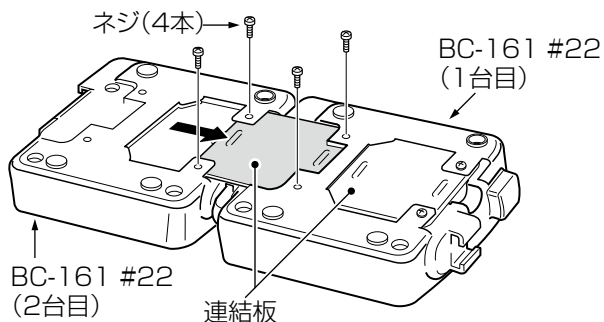


2. 右側面にあるDCプラグと、もう1台のBC-161 #22(左側面)にあるDCジャックを「カチッ」と音がるまで差し込みます。
3. 底面部(2台目のBC-161 #22)にある連結板を固



定するネジ(2本)を取りはずして、連結板を1台目の充電器のほうに移動させます。

取りはずしたネジ(2本)とBC-161 #22に付属のネジ(2本)で連結板を固定します。



△警告

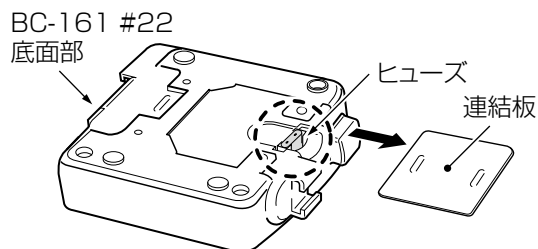
BC-161 #22を連結して充電できるのは、最大4台までです。

5台以上を連結して充電しないでください。

火災、発熱、感電、けが、故障の原因になります。

■ BC-161 #22のヒューズ交換について

ヒューズが切れ、充電ランプが点灯しないときは、原因を取り除いてから、下記のヒューズ(4A/32V)を取り替えてください。



■ BC-161 #22の定格について

定格入力電圧:DC15V

※ACアダプター(別売品:BC-165)を使用時

使用温度範囲:0~40℃

重量:約225g

寸法:122.5(W)×59.7(H)×95.0(D)mm

※定格・仕様・外観等は、改良のため予告なく変更する場合があります。

9 別売品とその使いかた

■ 充電のしかた(BC-208の場合)

ご購入後、はじめてご使用になるときは、必ずバッテリーパックを充電してください。

※BC-208には、BC-123S(BC-208の電源)を付属していません。

BC-123Sも併せて、ご購入ください。

※BC-208の電源には、必ずBC-123Sをご使用ください。

バッテリーパックを単体、または無線機に装着した状態で急速充電できます。

充電ランプ		充電器(BC-208)の状態
橙色	点灯	充電中
	点滅	◎バッテリーパックが正しく差し込まれていない ◎0℃～40℃以外の環境で充電している
	消灯	◎充電端子や電源端子の接触不良
緑色	点灯	充電完了
	点滅	◎バッテリーパックが正しく差し込まれていない ◎0℃～40℃以外の環境で充電している
	消灯	◎充電端子や電源端子の接触不良

※充電が完了した状態で放置していても、バッテリーパックの電圧が低下したときは、自動的に再充電を開始します。

■ BC-208の定格について

入力電圧:DC13.8V±15%

※ACアダプター(別売品:BC-123S)を使用時

使用温度範囲:0～40℃

重量:約147g(BC-123Sを除く)

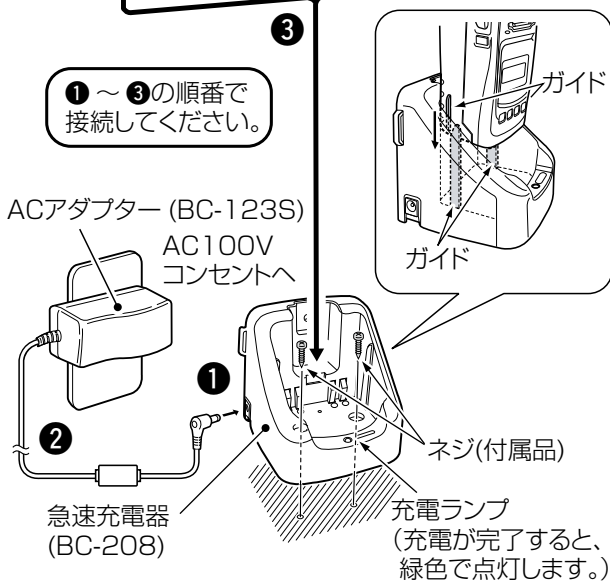
寸法:86(W)×81(H)×78.5(D)mm

※定格・仕様・外観等は、改良のため予告なく変更する場合があります。

充電するときは、必ず無線機の電源を切ってください。
※電源を入れたまま充電すると、正常に充電できないことがあります。

バッテリーパック
(BP-274N/BP-274
BP-220N1)

無線機+
バッテリーパック

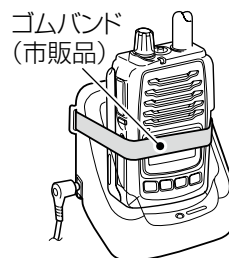


ご注意

LC-164T/LC-166T(別売品:ハードケースS/ハードケースL)、MB-97(別売品:ベルトクリップ(ステンレス製))を装着した状態では充電できません。

【充電器の使用例】

右図のように、市販のゴムバンドなどで固定すると、無線機が充電器からはずれるのを防止できます。



■ 充電のしかた(BC-197の場合)

ご購入後、はじめてご使用になるときは、必ずバッテリーパックを充電してください。

バッテリーパックを単体、または無線機に装着した状態で急速充電できます。

充電ランプは、充電中に橙色、充電完了で緑色に点灯します。

■ BC-197の定格について

入力電圧:DC12.0~16.0V

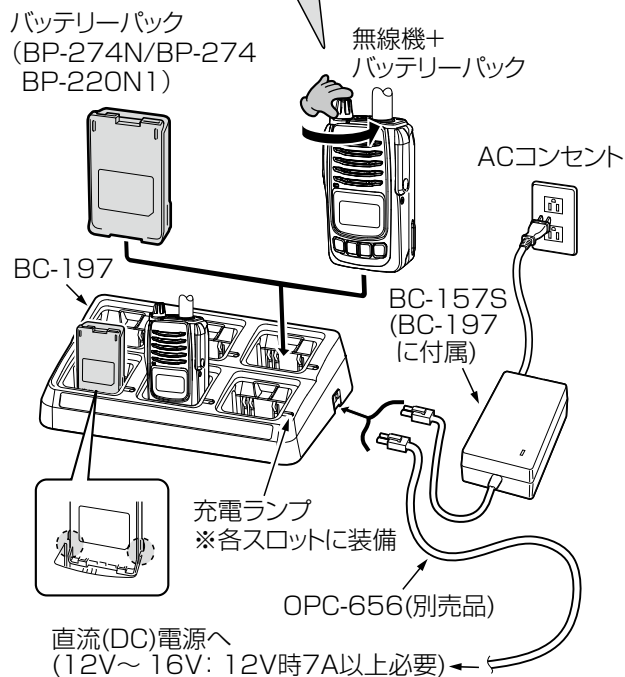
使用温度範囲:10~40℃

重量:約1200g(BC-157Sを除く)

寸法:303.2(W)×78.2(H)×179.7(D)mm

※定格・仕様・外観等は、改良のため予告なく変更する場合があります。

充電するときは、必ず無線機の電源を切ってください。
※電源を入れたまま充電すると、正常に充電できないことがあります。



【充電中に充電器のランプが赤色点滅になるときは】

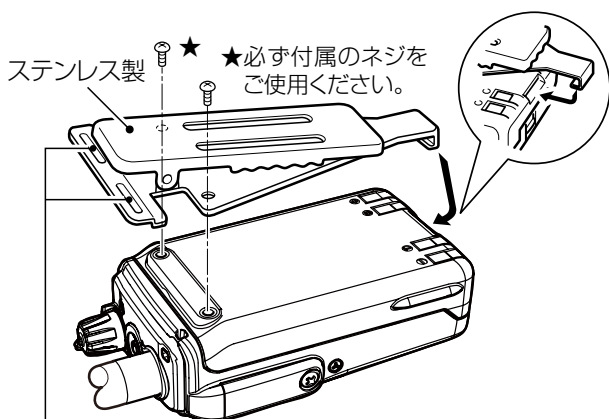
無線機の電源を入れた状態で充電しているときは、無線機の電源を切った状態で充電してください。

※充電状況が変化しない場合は、バッテリーパックの故障、または寿命ですので、お買い上げの販売店、または弊社サポートセンターにお問い合わせください。

ご注意

LC-164T/LC-166T(別売品:ハードケースS/ハードケースL)、MB-97(別売品:ベルトクリップ(ステンレス製))を装着した状態では充電できません。

■ MB-97(ベルトクリップ)



MB-80のストラップ部、またはMB-57Lのショルダーストラップを取り付けできます。

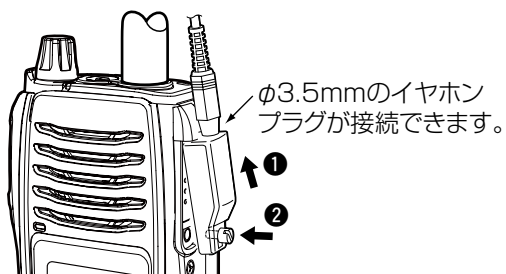
△注意

腰などに固定するときは、指を挟まないようご注意ください。

■ AD-52(イヤホンジャックアダプター)

SP-16、SP-16B、SP-16BW、SP-29、SP-29Lのいずれかでお使いになれます。

※装着しても、イヤホンプラグが接続されるまでは、無線機内蔵のスピーカーが機能します。



■ HM-109/HM-163A/HM-225

(接話タイピン型マイクロホン)

EH-14、EH-15、EH-15B、SP-28のいずれかでお使いになれます。

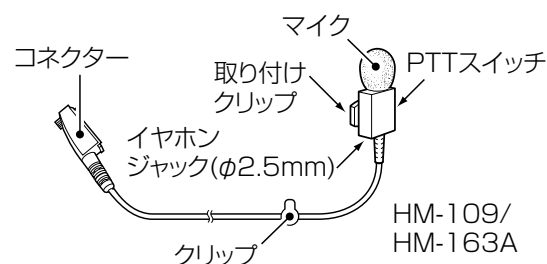
※HM-109 : 単一指向性マイク(樹脂クリップ)

※HM-163A : 無指向性マイク

(防水コネクター/金属クリップ)

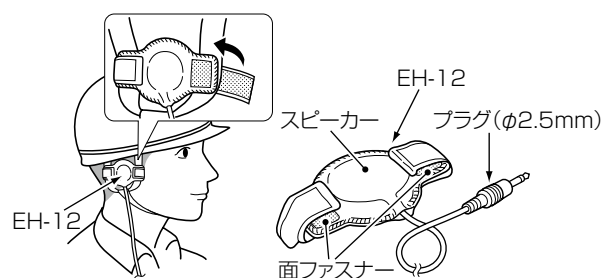
※HM-225を単体でお使いになるときは、付属の変換ケーブルを接続してください。

※HM-225は、UT-135(GPS ドングル)と組み合わせてもお使いになれます。



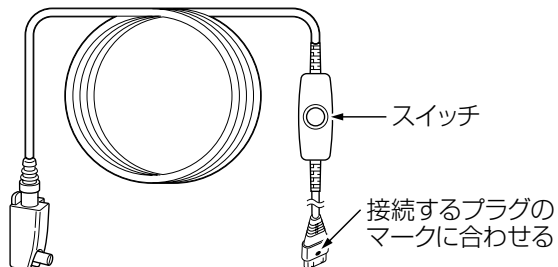
■ EH-12(ヘルメット取り付け型スピーカー)

HS-92のいずれかでお使いになれます。





■ OPC-637(マイクスイッチ内蔵型接続ケーブル)

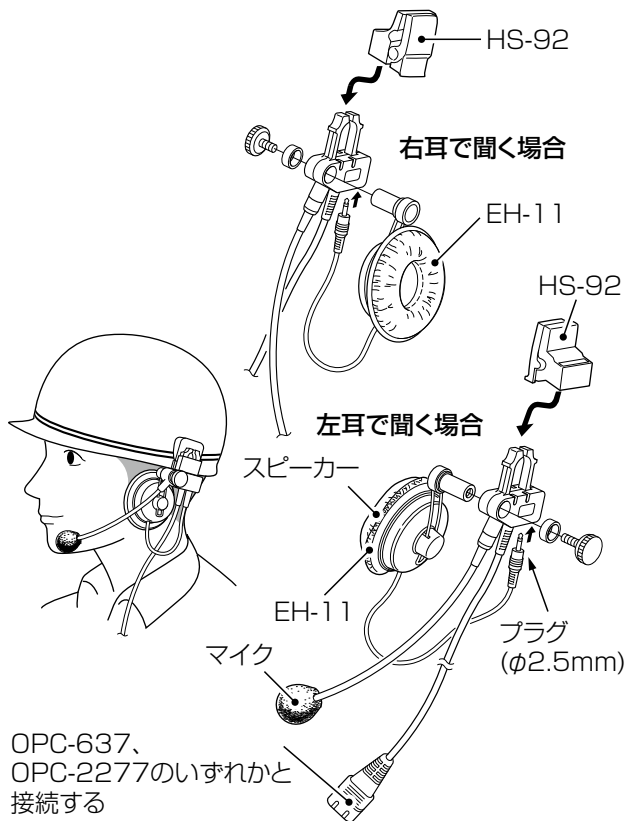
HS-88A、HS-92、HM-104、HM-104Aのいずれかでお使いになれます。



スイッチは、ノンロック(未固定)式です。

-  : 押しているあいだけ、送話する
-  : はなすと、送話を中断する

■ HS-92(ヘルメット取り付け型ヘッドセット)とEH-11(イヤーパーッド型スピーカー)の組み立て



■ UT-135(GPSドングル)

GPS(Global Positioning System)は、米国が開発、および運用管理をしています。

同国の政策上、予告なしに測位精度の悪化、GPS衛星の調整、試験、および軌道修正などで、いくつかの衛星信号が発信停止する場合や、メンテナンスなどで衛星から異常電波が発信される場合があります。このような場合、誤作動したり、測位精度が著しく悪化したりする場合があります。

下記の注意事項を十分配慮して、GPSをお使いください。

◎測位精度に関する注意事項

受信衛星の配置や電磁障害、受信信号のマルチパスなどの影響により、測位精度が著しく悪化した状態(位置飛びなど)が発生する場合がありますので、ご注意ください。

◎使用に関する注意事項

本製品は、ノイズを発生する回路や機器からなるべくはなしてください。

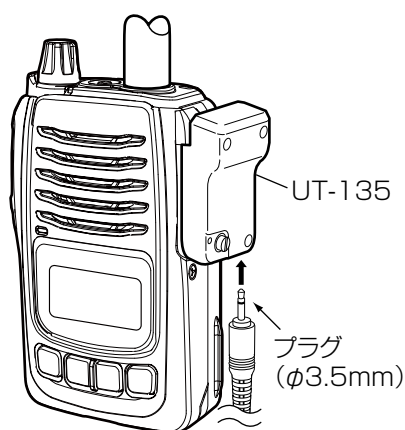
GPS信号の周波数帯(1.575GHz付近)や、その整数分の1となる周波数の高調波が、受信や測位に影響を与える場合があります。

※ご使用になるには、外部電源制御の設定をお買い上げの販売店にご依頼ください。

※通常は、数十秒で測位しますが、使用環境によっては、数分かかることもあります。

※UT-135を装着した状態では、LC-164T(ハードケースS)、LC-166T(ハードケースL)は使用できません。

※HM-225、SP-16、SP-16B、SP-16BW、SP-29、SP-29Lのいずれかと組み合わせてもお使いになれます。HM-225をお使いになるときは、HM-225に付属の変換ケーブルをはずして、UT-135と接続してください。

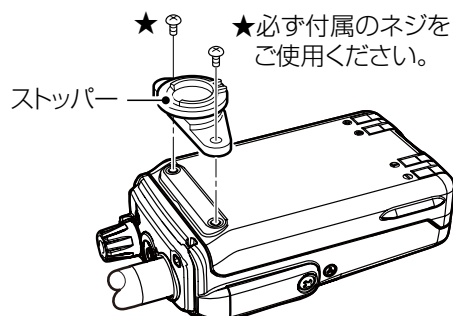


ご注意

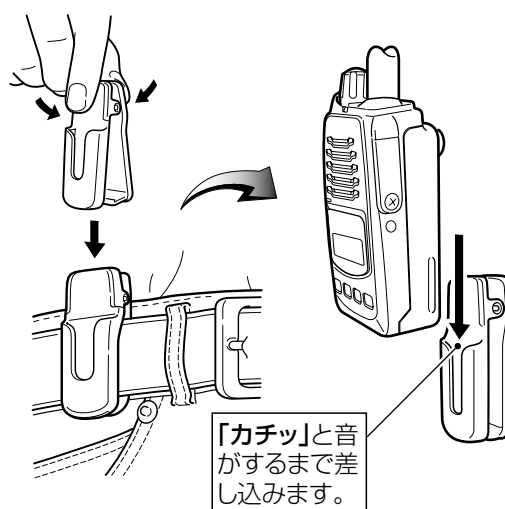
GPSドングルを使用すると、常にGPS受信機が動作しているので、バッテリーの消耗が速くなります。

■ MB-86(回転式ベルトクリップ)

【組み立てかた】



【無線機の取り付けかた】

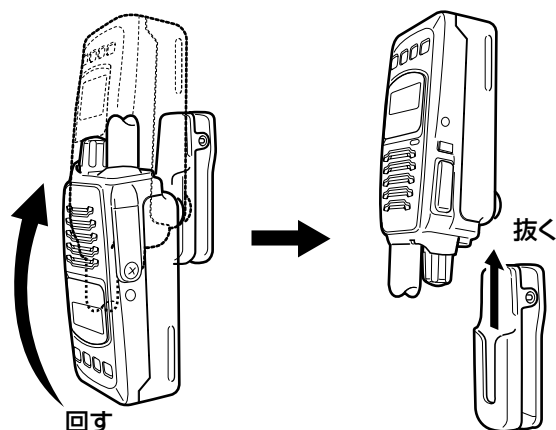


【無線機のはずしかた】

ベルトクリップから無線機をはずすときは、無線機を回転させてから引き抜きます。

【ストッパーの破損に注意】

落下など、強い衝撃が加わってストッパー部分を破損すると、ベルトクリップが正常に機能しないおそれがあります。



■ 日常の保守と点検

- ◎ふだんは乾いたやわらかい布でふき、汚れのひどいときは、水を含ませたやわらかい布をかたく絞ってふいてください。
洗剤や有機溶剤(シンナーやベンジンなど)を絶対に使用しないでください。
また、バッテリーパック(BP-220N1/BP-274N/BP-274)やアルカリ電池ケース(BP-221)を取りはずした状態では、乾いたやわらかい布でふいてください。
- ◎無線機本体、充電器(BC-161 #22、BC-121NA、BC-197、BC-208)、バッテリーパック、アルカリ電池ケースの各端子(充電端子や電源端子)にゴミやホコリが付着すると、接触不良が原因で正常に動作しないことがあります。
乾いた布などで、各端子を定期的にふいてください。
- ◎使用される前に、電池の容量が十分残っているか、表示部の残量表示(P.2-3)を確認してください。
また、アルカリ電池ケース、またはバッテリーパックなどがしっかりと装着されているか点検してください。
- ◎定期的に決まった位置の相手局と交信して、交信状態に変化がないかを調べてください。
- ◎音量が最小に調整されていないか、確認してください。

■ 防塵/防水性能維持の定期点検と保守

本製品は、IP67を保証している無線機です。
保証期間については、保証書をご覧ください。
この防塵/防水性能を維持するためにも、保証期間経過後は定期点検(年1回)の実施をおすすめします。
また、防塵/防水保証の延長なども含んだ保守サービス(有料)を準備しております。
定期点検や保守サービスの詳細については、お買い上げの販売店、または弊社サポートセンターにお問い合わせください。
弊社サポートセンターへのお問い合わせ先については、弊社ホームページ <https://www.icom.co.jp/> をご覧ください。

10 保守について

■ 弊社製無線機との相互使用

弊社製品と相互に使用するときは、下記の無線機をお使いください。

(2021年6月現在)

アナログ通信

ご注意

個別呼び出し機能(2桁仕様)、秘話機能、CDCSS機能は、本製品との通話には使用できません

IC-DV60S1(#51)

IC-DV6010S1(#51)
IC-DV60S1(#11)*
IC-DV6010S1(#31)*
IC-VH37MFT
IC-VH45MFT*
IC-VM4525MFT*

IC-DU60S1(#51)

IC-DU6010S1(#51)
IC-DU60S1(#11)*
IC-DU6010S1(#31)*
IC-UH37MFT(#04)

IC-DU60S2(#52)

IC-DU6010S2(#52)
IC-DU60S2(#12)*
IC-DU6010S2(#32)*
IC-UH37MFT(#03)

IC-DU60S3(#53)

IC-DU6010S3(#53)
IC-DU60S3(#13)*
IC-DU6010S3(#33)*
IC-UH37MFT(#62)
IC-UH38MFT
IC-UH65MFT
IC-UM6505MFT

デジタル通信

ご注意

ペアラモード通信は、本製品との通信に使用できません。

IC-DV60S1(#51)

IC-DV6010S1(#51)
IC-DV60S1(#11)
IC-DV6010S1(#31)

IC-DU60S1(#51)

IC-DU6010S1(#51)
IC-DU60S1(#11)
IC-DU6010S1(#31)

IC-DU60S2(#52)

IC-DU6010S2(#52)
IC-DU60S2(#12)
IC-DU6010S2(#32)

IC-DU60S3(#53)

IC-DU6010S3(#53)
IC-DU60S3(#13)
IC-DU6010S3(#33)

★ 本製品の個別呼び出し機能(3桁仕様)、緊急呼び出し機能は使用できません。

10 保守について

■ 故障かな?と思ったら

故障と思われるときは、下表にしたがって点検、確認してください。

それでも異常があるときは、弊社サポートセンター(P.10-4)までお問い合わせください。

現 象	原 因	処 置	参照
別売品のBC-121NA、BC-197で充電中に、充電器のランプが赤色点滅になる	無線機の電源を入れた状態で充電している	無線機の電源を切った状態で充電する ※充電状況が変化しない場合は、バッテリーパックの故障、または寿命ですので、お買い上げの販売店、または弊社サポートセンターにお問い合わせください。	—
別売品のBC-161 #22で充電中に、充電ランプが交互点滅(橙/緑)になる			
充電が完了(充電器のランプが緑色に点灯)しない			
電源が入らない	電池をアルカリ電池ケース(BP-221)に入れるとき、極性を間違えている	極性を確認して、アルカリ乾電池を入れなおす	—
	バッテリーパック(BP-220N1/BP-274N/BP-274)、またはアルカリ電池ケースの接触不良	バッテリーパックの充電端子、またはアルカリ電池ケースの電池端子を清掃する	—
	バッテリーパック、またはアルカリ乾電池の消耗	バッテリーパックの場合は充電し、アルカリ電池ケースの場合は新しいアルカリ乾電池と交換する	—
	バッテリーパックの場合、過放電保護回路が動作している	無線機からバッテリーパックを取りはずし、少し充電したあとにバッテリーパックをもう一度装着してから電源を入れる	—
スピーカーやイヤホンから音が聞こえない	音量が最小に調整されている	音量レベルを確認する	P.1-2
通話できない	通話チャンネルが合っていない	相手と同じ周波数チャンネルが設定された通話チャンネルに合わせる	P.3-2 P.4-2
	ユーザーコードが正しく設定されていない	相手と同じユーザーコードを設定する	P.3-6
	相手が秘話機能を使用していない、または自分の鍵番号の設定が異なる	相手の秘話機能と鍵番号を確認する	P.6-5
	個別番号、またはグループ番号を間違えている	個別番号、またはグループ番号を確認する	P.3-4 P.4-4
	アナログモードの個別呼び出し機能ON時、アンサーバック機能の設定が双方で異なる	設定をお買い上げの販売店に確認する	P.10-4
相手から応答がない	周囲の状況により、受信しにくくなっている	場所を移動してから通話してみる	P.3-3 P.4-3
	相手局が不在、または電源を切っている	自局、または相手局の状態を確認する	—
「キーロック」と表示される	キーロック機能が動作している	キーロック機能を解除する	P.7-1
「端末ロック」と表示される	パスワードを再入力した回数が、再入力可能回数を超えた	「端末ロック」の表示を解除するには、お買い上げの販売店にご依頼ください	P.10-4
本書で説明されている機能が使用できない	<ul style="list-style-type: none"> お買い上げ時に設定されていないため 機能が設定されていないため 	使用できる機能については、お買い上げの販売店にお問い合わせください	P.10-4

10 保守について

■ アフターサービス

「■ 故障かな?と思ったら」(P.10-3)にしたがって、もう一度、本製品の設定などを調べていただき、それでも異常があるときは、次の処置をしてください。

保証期間中は

お買い上げの販売店にお問い合わせください。

保証規定にしたがって修理させていただきますので、保証書を添えてご依頼ください。

保証期間後は

お買い上げの販売店にお問い合わせください。

修理することにより機能を維持できる製品については、ご希望により有料で修理させていただきます。

● 保証書について

保証書は販売店で所定事項(お買い上げ日、販売店名)を記入のうえお渡しいたしますので、記載内容をご確認いただき、大切に保管してください。

● 弊社製品のお問い合わせ先について

お買い上げいただきました弊社製品にご不明な点がございましたら、下記のサポートセンターにお問い合わせください。

お問い合わせ先:アイコム株式会社 サポートセンター
0120-156-313(フリーダイヤル)

◆ 携帯電話・公衆電話からのご利用は、
06-6792-4949(通話料がかかります)

受付(平日 9:00~17:00)

電子メール:support_center@icom.co.jp

アイコムホームページ:<https://www.icom.co.jp/>

高品質がテーマです。

